

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月25日
【事業年度】	第50期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	株式会社ダスキン
【英訳名】	DUSKIN CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山村輝治
【本店の所在の場所】	大阪府吹田市豊津町1番33号
【電話番号】	06(6387)3411(大代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 鶴見明久
【最寄りの連絡場所】	大阪府吹田市豊津町1番33号
【電話番号】	06(6387)3411(大代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 鶴見明久
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次 決算年月	第46期 平成20年3月	第47期 平成21年3月	第48期 平成22年3月	第49期 平成23年3月	第50期 平成24年3月
(1)連結経営指標等					
売上高(百万円)	192,344	188,552	181,280	177,320	171,118
経常利益(百万円)	15,259	14,487	13,806	12,613	11,609
当期純利益(百万円)	7,196	6,460	7,824	5,248	4,583
包括利益(百万円)				4,384	5,320
純資産額(百万円)	139,664	143,322	148,308	148,565	149,604
総資産額(百万円)	195,822	194,653	200,889	198,876	197,316
1株当たり純資産額(円)	2,054.32	2,130.52	2,226.72	2,262.41	2,314.38
1株当たり当期純利益金額 (円)	106.80	96.18	117.20	79.39	71.07
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額(円)					
自己資本比率(%)	70.7	73.2	73.4	74.3	75.4
自己資本利益率(%)	5.2	4.6	5.4	3.6	3.1
株価収益率(倍)	15.79	16.30	14.19	19.42	23.26
営業活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	15,555	13,993	18,563	14,032	14,057
投資活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	16,301	7,065	7,849	12,700	8,686
財務活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	10,282	5,628	3,803	9,749	4,355
現金及び現金同等物の期末 残高(百万円)	23,843	25,237	32,157	23,714	24,724
従業員数(人)	3,591	3,549	3,398	3,458	3,422
(外、平均臨時雇用者数)	(6,677)	(6,626)	(6,403)	(5,931)	(5,890)

回次 決算年月	第46期 平成20年3月	第47期 平成21年3月	第48期 平成22年3月	第49期 平成23年3月	第50期 平成24年3月
(2)提出会社の経営指標等					
売上高(百万円)	167,067	162,880	158,966	155,150	150,019
経常利益(百万円)	14,797	14,030	13,770	10,826	10,313
当期純利益(百万円)	7,020	7,388	7,592	4,615	4,428
資本金(百万円)	11,352	11,352	11,352	11,352	11,352
発行済株式総数(株)	67,394,823	67,394,823	67,394,823	67,394,823	66,294,823
純資産額(百万円)	121,378	126,704	131,489	131,190	132,128
総資産額(百万円)	179,251	180,571	185,201	185,086	184,811
1株当たり純資産額(円)	1,801.26	1,895.67	1,985.14	2,008.96	2,055.34
1株当たり配当額 (うち、1株当たり中間配当 額)(円)	40.00 ( )				
1株当たり当期純利益金額 (円)	104.18	109.99	113.73	69.80	68.66
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額(円)					
自己資本比率(%)	67.7	70.2	71.0	70.9	71.5
自己資本利益率(%)	5.8	6.0	5.9	3.5	3.4
株価収益率(倍)	16.18	14.26	14.62	22.09	24.08
配当性向(%)	38.40	36.37	35.17	57.31	58.26
従業員数(人) (外、平均臨時雇用者数)	1,982 (2,543)	1,987 (2,386)	2,014 (2,367)	2,033 (2,158)	2,039 (2,079)

(注)1.売上高には、消費税等は含まれておりません。

2.潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため、記載しておりません。

2【沿革】

年月	概要
昭和38年2月	創業者鈴木清一が「祈りの経営」の経営理念のもとに、大阪市淀川区（現北区）に株式会社サニク リーン設立。水を使わないで清掃ができるダストコントロール商品のレンタルサービスをフランチャ イズチェーンシステムにより開始。
昭和38年11月	大阪府吹田市に吹田工場開設。（現大阪中央工場へ移転）
昭和39年6月	商号を株式会社ダスキンに変更。
昭和42年9月	石川県七尾市に和倉工場開設。（現株式会社和倉ダスキンにて運営）
昭和43年7月	愛知県小牧市に小牧工場開設。（現株式会社ダスキンプロダクト東海にて運営）
昭和44年7月	ロールタオル（現キャビネットタオル）のレンタルを開始。
昭和46年1月	米国サービスマスター社と事業提携による「サービスマスター」を開始。
昭和46年3月	埼玉県三郷市にミサト工場開設。（現株式会社ダスキンプロダクト東関東にて運営）
昭和46年4月	ミスタードーナツ・オブ・アメリカ社との事業提携によるミスタードーナツ事業を開始。大阪府箕面 市に第1号店をオープン。
昭和46年7月	産業用ウエスのレンタル事業を開始。
昭和49年4月	熊本県上益城郡御船町にミフネ工場開設。（現株式会社ダスキンプロダクト九州にて運営）
昭和51年11月	株式会社アガとの提携により、化粧品販売開始。（現ヘルス&ビューティ事業）
昭和52年4月	害虫駆除等環境衛生管理サービス、サブコ事業（現「ターミックス」）を開始。
昭和52年8月	米国ユナイテッドレントオール社との事業提携によるユナイテッドレントオール事業（現レントオー ル事業）を開始。同年10月、1号店オープン。
昭和53年1月	兵庫県小野市に小野工場開設。（現株式会社小野ダスキンにて運営）
昭和53年6月	ダスキン共益株式会社設立。
昭和53年9月	愛媛県周桑郡小松町（現愛媛県小松市）に小松工場開設。（現株式会社ダスキンプロダクト中四国に て運営）
昭和53年12月	ユニフォームのレンタル、メンデルロンソン事業（現ユニフォームサービス事業）を開始。
昭和56年11月	財団法人広げよう愛の輪運動基金設立。
昭和57年7月	米国サービスマスター社（現アラマーク社）との事業提携による、医療関連施設のマネジメントサー ビスを開始。（現株式会社ダスキンヘルスケア）
昭和60年4月	空気清浄機のレンタルを開始。
昭和61年8月	浄水器のレンタルを開始。
平成元年7月	米国サービスマスター社との事業提携による「メリーメイド」を開始。
平成元年10月	仙台市泉区に仙台泉工場開設。（現株式会社ダスキンプロダクト東北にて運営）
平成元年12月	米国H.Nフェルナンデス社との事業提携による「カフェデュモンド」を開始。
平成2年9月	本社ビル完成により本店を大阪府吹田市へ移転。
平成3年5月	日本水産株式会社との合併で株式会社どん設立。同年12月、海鮮丼のザ・どん事業を開始。
平成5年10月	新フランチャイズシステム「サーヴ100」開始。
平成6年11月	台湾の統一超商股?有限公司との合併により、現地に楽清服務股?有限公司を設立。同年12月、現地に てクリーンサービス「サーヴ100」開始。
平成8年6月	大阪府吹田市に大阪中央工場開設。（吹田工場を移転）
平成9年12月	東京都八王子市に東京多摩中央工場開設。（現株式会社ダスキンプロダクト西関東にて運営）
平成10年8月	大阪府吹田市にミスタードーナツの研修施設「ミスタードーナツカレッジ」を開設。
平成10年11月	横浜市鶴見区に横浜中央工場開設。
平成11年2月	大阪中央工場がISO14001認証取得。（以降、ミスタードーナツ事業他、順次取得）
同 年 同 月	とんかつレストランの「かつアんどかつ」を開始。
平成11年4月	オフィスコーヒー等のケータリング事業（現ドリンクサービス事業）を開始。
平成11年6月	ミスタードーナツ事業を上海に合併形態で進出。平成12年5月、現地にミスタードーナツ事業を開 始。
平成11年11月	米国サービスマスター社との事業提携による「ツールグリーン」を開始。
平成12年6月	米国ホームインステッド・シニアケア社との事業提携による、ホームインステッド事業を開始。
平成12年8月	北海道千歳市に道央工場開設。（現株式会社ダスキンプロダクト北海道にて運営）
平成15年4月	品質保証体制構築のため、「品質保証委員会」設置。（現品質・環境委員会）
同 年 同 月	コンプライアンス体制構築のため、「コンプライアンス推進会議」設置。（現コンプライアンス委員 会）

年月	概要
平成16年4月	ダスキン共益株式会社を、株式交換により完全子会社化。
平成16年8月	台湾の統一超商股?有限公司との合併により、現地に統一多拿滋股?有限公司を設立。同年10月、現地にてミスタードーナツ事業を開始。
平成16年9月	三井物産株式会社との包括的な資本業務提携契約を締結。
平成16年12月	レンタル販売を営む関係会社を7地域7社に再編成完了。
同年同月	レンタル製品の加工を営む関係会社を一部直営工場を含めて7地域7社に再編成完了。
平成17年11月	中国（香港）に楽清香港有限公司（DUSKIN HONG KONG COMPANY LIMITED）設立。平成18年1月、上海に拠点設置。
平成18年8月	韓国にMISTER DONUT KOREA CO.,LTD.設立。平成19年4月、ソウル市内明洞に第1号店をオープン。
平成18年11月	三井物産株式会社、楽清服務股?有限公司との合併により、中国（上海）に楽清（上海）清潔用具租賃有限公司を設立。現地にてクリーンサービス事業を開始。
平成18年12月	東京証券取引所、大阪証券取引所の各市場第一部に上場。
平成20年1月	株式会社サカイ引越センターと業務提携契約締結。
平成20年2月	株式会社モスフードサービスと資本業務提携契約締結。
平成20年12月	中国（上海）でのミスタードーナツ事業の拡大を目的に、台湾の統一超商股?有限公司と合併契約締結。
平成21年1月	株式会社ニチイ学館と資本業務提携契約締結。
平成22年10月	アザレプロダクツ株式会社及び共和化粧品工業株式会社の株式を取得し両社を完全子会社化。
平成23年7月	マレーシアでのミスタードーナツ事業の展開を目的に、当社子会社の楽清香港有限公司がイオンマレーシアとフランチャイズ契約を締結。同年8月、クアラルンプール近郊に第1号店をオープン。
平成23年10月	レンタル販売を営む株式会社ダスキンサーヴ近畿設立。
平成24年2月	韓国でのダストコントロール事業の展開を目的に、当社子会社のMISTER DONUT KOREA CO.,LTD.が韓国のFOODMERCE CO.,LTD.と合併会社設立契約を締結し、同年3月、PULMUONE DUSKIN CO.,LTD.を設立。同年同月、ソウル市内に第1号店をオープン。

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（株式会社ダスキン）、子会社27社及び関連会社4社により構成され、クリーンケアグループのダストコントロール商品のレンタル及びフードグループのミスタードーナツを主な事業内容とし、更にこれらに関連する事業活動をフランチャイズ方式を中心に展開しております。

事業内容と当社及び関係会社等の当該事業に係る位置付けは、次のとおりであります。なお、事業の区分は報告セグメントと同一であります。

区分		主要会社名	
クリーンケアグループ 清掃用資器材の賃貸 化粧品等の製造・販売 キャビネットタオルの賃貸 トイレタリー商品の販売 産業用ウエスの賃貸 浄水器・空気清浄機の賃貸 ハウスクリーニングサービス 家事代行サービス 害虫駆除・予防サービス 樹木・芝生管理サービス 工場・事務所施設管理サービス 高齢者生活支援サービス 旅行用品・ベビー用品・レジャー用品 ・健康及び介護用品等の賃貸並びに販売 ユニフォームの賃貸 オフィスコーヒー等の販売等	販売	国内	当社、(株)ダスキンサーヴ北海道、(株)ダスキンサーヴ東北、(株)ダスキンサーヴ北関東、(株)ダスキンサーヴ東海北陸、(株)ダスキンサーヴ近畿、(株)ダスキンサーヴ中国四国、 (株)ダスキンサーヴ九州、(株)ダスキンシャトル東京、 共和化粧品工業(株)
	製造 販売	国内	アザレプロダクト(株)
	製造	国内	当社、(株)和倉ダスキン、(株)小野ダスキン、(株)ダスキンプロダクト北海道、(株)ダスキンプロダクト東北、(株)ダスキンプロダクト東関東、(株)ダスキンプロダクト西関東、(株)ダスキンプロダクト東海、(株)ダスキンプロダクト中四国、(株)ダスキンプロダクト九州
フードグループ ドーナツ・ベニエ・オープン商品 飲茶並びに料理飲食物の販売等	販売	国内	当社、(株)どん
	製造	国内	(株)エバーフレッシュ函館
その他 事務用機器及び車輛のリース 病院のマネジメントサービス 保険代理業 海外事業等	販売	国内	当社、ダスキン共益(株)
		海外	楽清(上海)清潔用具租賃有限公司、 楽清服務股?有限公司、PULMUONE DUSKIN CO.,LTD., MISTER DONUT KOREA CO.,LTD., 統一多拿滋(上海)食品有限公司、統一多拿滋股?有限公司
	その他	国内	(株)ダスキンヘルスケア、 ダスキン保険サービス(株)
		海外	楽清香港有限公司

(注) 当連結会計年度より、従来の「クリーングループ」を、「クリーンケアグループ」へと名称変更いたしました。  
なお、当該変更は名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

[ クリーンケアグループ ]

このグループは、マット・モップ、キャビネットタオル、空気清浄機等の清掃美化関連商品のレンタルを主とする「ダストコントロール事業」を中核にして、ハウスクリーニングを提供する「サービスマスター」、家事代行サービスを提供する「メリーメイド」、害虫駆除・予防サービスを提供する「ターミニックス」、樹木・芝生管理サービスを提供する「トゥルグリーン」の清掃美化関連役務提供事業を、一般家庭と事業所のマーケット別に展開しております。

ダストコントロール事業は、フランチャイズ方式による展開を基本としており、当社は加盟店に対してマット、モップ等のレンタルを行う他、日用品やトイレタリー商品、オフィスコーヒーや天然水等の販売を行っております。加盟店は、お客様に商品を一定期間レンタルし、期間経過後にお客様から回収して当社へ返却し、当社又は生産子会社等は、回収後の商品を洗浄等の再生加工を施した上で再製品化を行い、再度加盟店へ供給を行っております。

清掃美化関連役務提供事業は、フランチャイズ方式による展開を基本としており、当社は加盟店に対して薬剤・資機材等の販売を行うと共に、当社ブランドを使用した事業運営に関するノウハウ及び清掃技術を提供し、その対価としてロイヤルティを得ております。

また、ダストコントロール事業、清掃関連役務提供事業とも、一部の地域においては、当社直営の店舗又は関係会社を通して同様の仕組みでお客様へ商品を提供しております。

その他このグループは、「ヘルス&ビューティ事業」等の化粧品事業、高齢者生活支援サービスを提供する「ホームインステッド事業」、介護用品やイベント用品・日用品のレンタル「レントオール事業」、ユニフォーム賃貸の「ユニフォームサービス事業」で構成されております。

[ フードグループ ]

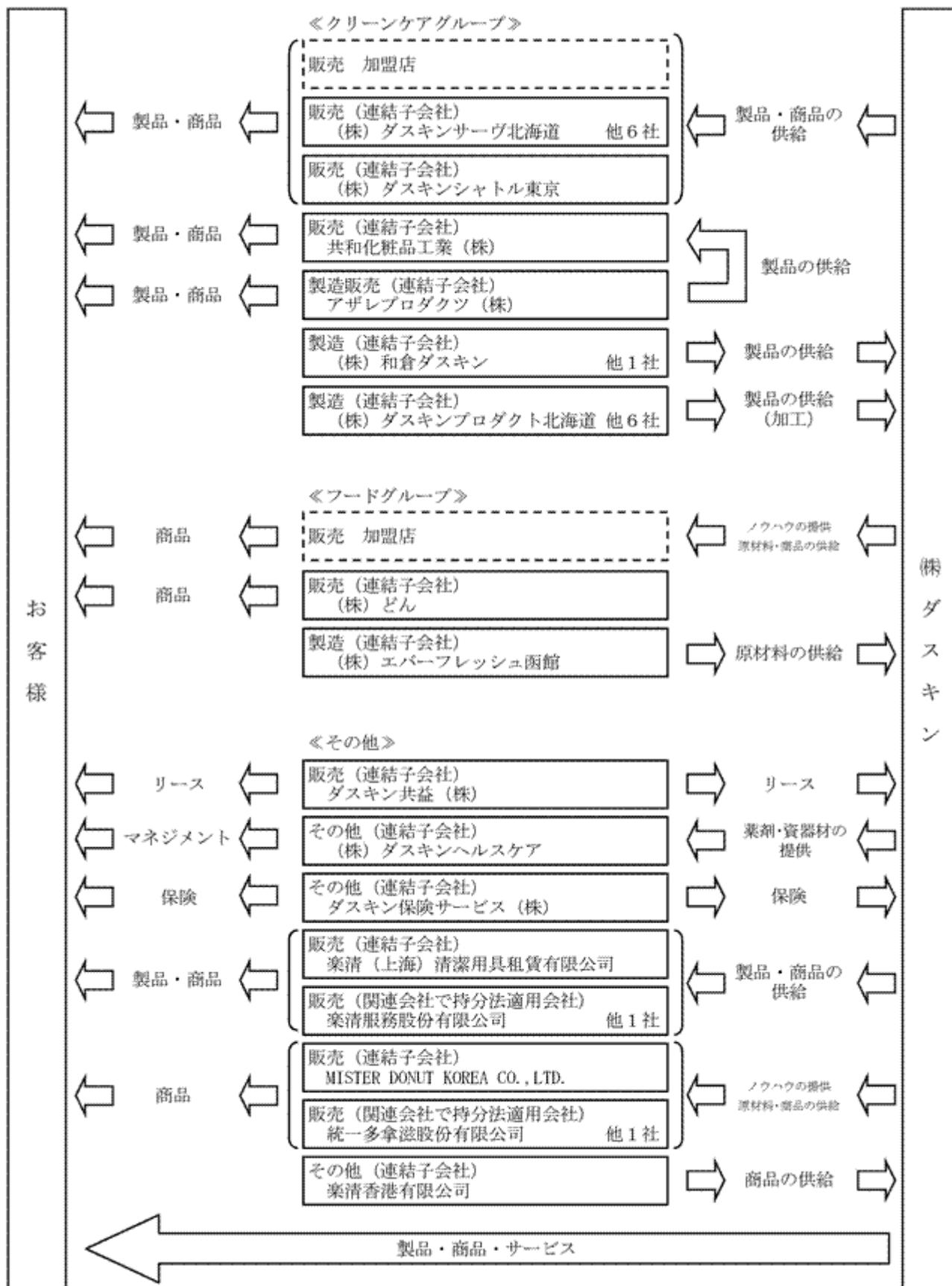
このグループは、飲食店の展開を目的とした事業グループであり、ドーナツ・飲茶等を販売する「ミスタードーナツ」が主体で、その他、カフェ「カフェデュモンド」、とんかつレストラン「かつアンドかつ」、スティック型ケーキの店「スティック・スイーツ・ファクトリー」、子会社において海鮮丼の店「ザ・どん」を展開しております。

ミスタードーナツは、フランチャイズ方式による店舗展開を基本としており、当社は加盟店に対してドーナツ等の原材料等の販売を行うと共に、当社ブランドを使用した店舗運営に関するノウハウ及び製造技術を提供し、その対価としてロイヤルティを得ております。また、国内の一部地域においては、当社直営の店舗にてドーナツ等の販売を行っております。

[ その他 ]

「その他」は、報告セグメントに含まれない事業で、国内でフランチャイズ展開を行っていない事業（主にフランチャイズ加盟店を対象とした事務用機器・車輛等のリース事業、病院のマネジメントサービス及び保険代理業）及びダストコントロール事業、ミスタードーナツの海外部門並びに海外部門の原材料調達事業で構成されております。

以上の内容についての事業系統図は、次頁のとおりであります。



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容			
					役員 の 兼任 (人)	資金 援助等 (百万円)	営業上の取引	設備の 賃貸借
(連結子会社)								
(株)ダスキンサーヴ 北海道	札幌市 豊平区	100	クリーンケア グループ	100.0			当社製品のレンタル 及び販売	事務所の 賃貸
(株)ダスキンサーヴ 東北	仙台市 宮城野区	100	クリーンケア グループ	100.0			当社製品のレンタル 及び販売	事務所の 賃貸
(株)ダスキンサーヴ 北関東	群馬県 前橋市	100	クリーンケア グループ	100.0			当社製品のレンタル 及び販売	事務所の 賃貸
(株)ダスキンサーヴ 東海北陸	名古屋市 熱田区	100	クリーンケア グループ	100.0			当社製品のレンタル 及び販売	事務所の 賃貸
(株)ダスキンサーヴ 近畿	神戸市 東灘区	50	クリーンケア グループ	100.0			当社製品のレンタル 及び販売	事務所の 賃貸
(株)ダスキンサーヴ 中国四国	広島市 西区	100	クリーンケア グループ	100.0		7	当社製品のレンタル 及び販売	事務所の 賃貸
(株)ダスキンサーヴ 九州	福岡市 早良区	100	クリーンケア グループ	100.0			当社製品のレンタル 及び販売	事務所の 賃貸
(株)ダスキンシャトル 東京	東京都 江東区	10	クリーンケア グループ	100.0		16	当社製品のレンタル 業務代行	事務所の 賃貸
アザレプロダクツ(株)	大阪府 八尾市	30	クリーンケア グループ	100.0	2	54		
共和化粧品工業(株)	大阪府 八尾市	15	クリーンケア グループ	100.0	2			
(株)和倉ダスキン	石川県 七尾市	390	クリーンケア グループ	100.0			当社製品の製造	土地等の 賃貸
(株)小野ダスキン	兵庫県 小野市	200	クリーンケア グループ	100.0			当社製品の製造	土地建物 等の賃貸
(株)ダスキンプロダク ト北海道	北海道 千歳市	80	クリーンケア グループ	100.0			当社製品のクリーニ ング加工及び配送	土地建物 等の賃貸
(株)ダスキンプロダク ト東北	仙台市 泉区	40	クリーンケア グループ	100.0			当社製品のクリーニ ング加工及び配送	土地建物 等の賃貸
(株)ダスキンプロダク ト東関東	埼玉県 三郷市	80	クリーンケア グループ	100.0			当社製品のクリーニ ング加工及び配送	土地建物 等の賃貸
(株)ダスキンプロダク ト西関東	東京都 八王子市	80	クリーンケア グループ	100.0		147	当社製品のクリーニ ング加工及び配送	土地建物 等の賃貸
(株)ダスキンプロダク ト東海	愛知県 小牧市	40	クリーンケア グループ	100.0			当社製品のクリーニ ング加工及び配送	土地建物 等の賃貸
(株)ダスキンプロダク ト中四国	広島県山県 郡北広島町	80	クリーンケア グループ	100.0			当社製品のクリーニ ング加工及び配送	土地建物 等の賃貸
(株)ダスキンプロダク ト九州	熊本県上益 城郡御船町	80	クリーンケア グループ	100.0		133	当社製品のクリーニ ング加工及び配送	土地建物 等の賃貸

名称	住所	資本金 又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容			
					役員 の 兼任 (人)	資金 援助等 (百万円)	営業上の取引	設備の 賃貸借
(株)どん	大阪府 吹田市	100	フードグルー プ	100.0		50		事務所の 賃貸
(株)エパーフレッシュ 函館	北海道 函館市	50	フードグルー プ	55.0		(245)	当社製品の製造	
ダスキン共益(株)	大阪府 吹田市	440	その他	100.0			事務用機器等の賃貸	事務所の 賃貸
(株)ダスキンヘルスケ ア	東京都 港区	400	その他	100.0			薬剤及び資器材の 提供	事務所の 賃貸
ダスキン保険サービ ス(株)	大阪府 吹田市	20	その他	100.0			当社グループの 損害保険代理店	事務所の 賃貸
楽清(上海)清潔用具 租賃有限公司	中国 (上海)	35百万 中国元	その他	85.0 (85.0) [15.0]	2		当社製品の販売	
楽清香港有限公司	中国 (香港)	42百万 HKドル	その他	60.0	2		原材料の供給	
MISTER DONUT KOREA CO.,LTD.	韓国 (ソウル)	8,000 百万KR ウォン	その他	60.0	1		ノウハウの提供及び 原材料の供給	
(持分法適用関連会社)								
楽清服務股?有限公司	台湾 (台北)	200百万 NTドル	その他	49.0	4		当社製品の販売	
PULMUONE DUSKIN CO.,LTD.	韓国 (ソウル)	3,000 百万KR ウォン	その他	49.0 (49.0)	1		当社製品の販売	
統一多拿滋股? 有限公司	台湾 (台北)	175百万 NTドル	その他	50.0	3		ノウハウの提供及び 原材料の供給	
統一多拿滋(上海)食 品有限公司	中国 (上海)	123百万 中国元	その他	50.0	2		ノウハウの提供及び 原材料の供給	

- (注) 1. 主要な事業の内容には、報告セグメントの名称を記載しております。  
2. 特定子会社に該当するものではありません。  
3. 議決権の所有割合の( )内は、間接所有割合で内数であり、[ ]内は、緊密な者又は同意している者の所有割合で外数となっております。  
4. 資金援助等の( )内は債務保証によるものであります。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
クリーンケアグループ	2,409 (2,995)
フードグループ	524 (818)
その他	289 (2,053)
全社(共通)	200 (24)
合計	3,422 (5,890)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であります。  
2. 従業員数欄の( )外書は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。  
3. 全社(共通)として記載されている従業員は、管理部門に属しているものであります。

### (2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
2,039 (2,079)	42.4	14.7	7,886,571

セグメントの名称	従業員数(名)
クリーンケアグループ	1,393 (1,272)
フードグループ	446 (783)
その他	0 (0)
全社(共通)	200 (24)
合計	2,039 (2,079)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であります。  
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
3. 従業員数欄の( )外書は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。  
4. 全社(共通)として記載されている従業員は、管理部門に属しているものであります。

### (3) 労働組合の状況

当社グループには、UIゼンセン同盟ダスキン労働組合と称する労働組合が組織されており、大阪府吹田市に同組合本部が置かれ、平成24年3月31日現在における組合員数は2,106名で上部団体のUIゼンセン同盟に加盟しております。

なお、労使関係について、特に記載すべき事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当連結会計年度（平成23年4月1日～平成24年3月31日、以下「当期」）における我が国の経済は、長期にわたる円高や原材料価格の高止まりに加えて、東日本大震災の影響や原発の問題及び欧州債務危機の拡大に伴う海外経済の動向等のリスク要因を抱え、依然として不透明感が残っているものの、期の後半は震災の復興需要期待、日銀の金融政策による円高基調の是正等から緩やかながらも景気は回復傾向となりました。しかしながら、個人消費は様々なリスク要因から底堅いながらも低水準に留まりました。

このような環境の中、当社は、それぞれの展開地域毎にその地域特性に応じた施策がスピーディーに実行できるよう「地域本部」への権限移譲を進めると共に、人材育成・教育の面でも、地域単位できめ細やかに人を育てるために、各地域本部毎に「地域研修センター」を整備しました。また、主要なお客様が女性であることから、女性スタッフによる商品開発や広告展開等にも注力しました。更には、お客様との接点を強化すべく、クリーンケアグループでは街頭や郵便局でのデモンストレーションの実施、ダストコントロール事業のフランチャイズ加盟店へのケア事業（清掃美化関連の役務提供サービス）加盟促進に積極的に取り組み、サービス店舗数を増やすことで成長市場への対応力の強化に努めました。ミスタードーナツでは「焼きドーナツ」という新しいカテゴリーにチャレンジすると共に、省スペース店舗や新業態の出店及び検証を行いました。また、東日本大震災の被災地においては、製造実演車「ミスタードーナツカー」を使ってドーナツを提供する等の活動にも取り組みました。

しかしながら、個人消費の回復の遅れ及び事業所等の経費節減傾向の継続等が業績に大きく影響を及ぼしました。

以上の結果、当期の連結売上高は1,711億18百万円（前期比3.5%減）、連結営業利益は98億41百万円（前期比10.0%減）、連結経常利益は116億9百万円（前期比8.0%減）、連結当期純利益は45億83百万円（前期比12.7%減）となりました。

#### [セグメントの業績]

報告セグメントにつきましては、従来の「クリーングループ」について、「クリーンケアグループ」と名称を変更いたしました。この変更は、名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

#### クリーンケアグループ

一般ご家庭向けの清掃関連用具のレンタル及び清掃美化関連の役務提供サービスを手掛けるホームサービスにおきましては、いつでも気がついたときにフロアモップでホコリを集めて、置き型式掃除機「ダストクリナー」で吸い取るという“新おそうじスタイル”の定着に注力しました。手軽で手間の掛からないこの“新おそうじスタイル”は大変好評で、フロアモップの新商品「L a L a」のデザイン性、機能性が評価されたことも相俟って、フロアモップの売上は増加し、モップ商品全体の売上は前期を上回りました。役務提供サービスは、標準料金を明確にしたこと、年間を通して最も需要が高まる年末に向けてサービススタッフの増員を図ったこと等により順調に推移しました。中でもエアコンクリーニングサービスは、節電意識の高まりを背景に大きく受注件数を伸ばしました。しかしながら、空気清浄機やフィルター商品等の売上が前期を下回ったこと等で、ホームサービス全体としては前期並みの売上高となりました。

事業所向けのサービスを手掛けるビジネスサービスは、お客様の衛生管理に関する要望を総合的にサポートする提案型営業と、繰り返しお客様を訪問する小商圏活動を基本とした衛生管理サービスの基盤作りを推進したことにより、空間衛生サポートの中心商品である「空間清浄機デオ」の売上が順調に増加しました。また、大口・地域チェーン店の獲得活動も積極的に行いました。しかしながら、企業の経費節減意識が依然強く、主力のマット商品群の売上が減少し、ビジネスサービス全体の売上高は前期を下回りました。

クリーンケアグループのその他の事業につきましては、介護用品のレンタルを行うヘルスレントが順調に増加したレントオール事業、水需要が高まったドリンクサービス事業及びホームインステッド事業の売上高は前期を上回りましたが、ヘルス&ビューティ事業は前期並み、ユニフォームサービス事業は減少しました。

以上の結果、クリーンケアグループ全体の売上高は1,121億77百万円（前期比3.0%減）、営業利益は137億89百万円（前期比1.2%増）となりました。

## フードグループ

ミスタードーナツ事業は、お客様層の拡大を目指して、「焼きドーナツ」という新たなカテゴリーに参入しました。夏場対策としては、夏季限定ドーナツやドリンクの販売を行いました。また、季節催事に合わせた新商品や観光地の名産品をモチーフにしたご当地ドーナツ等、季節感、バラエティ感を前面に打ち出した商品展開に注力しました。出店に関しましては、お客様との接点拡大を図るべく、駅構内にキッチンレスのテイクアウト専門店、株式会社モスフードサービスとのコラボレーションブランド「MOSDO」の新店（京都河原町通りショップ）、「蒸しドーナツ」を新たなブランドで展開する「和っ花」の新店（JR大阪駅店）をオープンしました。しかしながら、東日本大震災による消費マインドの冷え込み等からくる落ち込みをカバーするに至らず、売上高は前期を下回りました。

フードグループのその他の事業につきましては、かつアンドかつ事業、スティック・スイーツ・ファクトリー事業は、店舗数の増加に伴って売上高が増加しましたが、不採算店を閉鎖し稼働店が減少したカフェデュモンド事業、海鮮丼チェーンを運営する株式会社どんの売上高は前期を下回りました。

以上の結果、フードグループ全体の売上高は488億7百万円（前期比4.5%減）、営業利益は28億76百万円（前期比34.9%減）となりました。

## その他

株式会社ダスキンヘルスケアで展開しております病院施設のマネジメントサービスは、大口契約が獲得できたことで前期の売上高を上回りました。

ダスキン共益株式会社に展開しておりますリース事業は、ミスタードーナツ店舗のPOS機器保守メンテナンスの契約内容を変更したこと等により前期の売上高を下回りました。

海外のダストコントロール事業及びミスタードーナツ事業につきましては、既存展開地域は順調に推移する中、更に展開地域の拡大を図る取り組みにも注力しました。8月にミスタードーナツ事業海外6ヵ国目となるマレーシアへの進出を果たし、また3月には、韓国でのダストコントロール事業の展開を現地企業との合弁で開始しました。

以上の結果、その他の売上高は101億33百万円（前期比3.9%減）、営業利益は3億75百万円（前期比77.7%増）となりました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」）は、前連結会計年度末の237億14百万円から10億9百万円増加し247億24百万円となりました。各々のキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度末における営業活動によるキャッシュ・フローは、140億57百万円の資金収入（前期比25百万円増）となりました。その要因は、税金等調整前当期純利益が102億円（同11億86百万円増）、減価償却費が62億42百万円（同69百万円増）及び売上債権の減少額が14億36百万円（前期は2億70百万円の増加額）あったことに対し、法人税等の支払額が49億73百万円（同8億5百万円増）あったこと等であります。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度末における投資活動によるキャッシュ・フローは、86億86百万円の資金支出（同40億14百万円減）となりました。その要因は、有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入が101億5百万円（同44億95百万円減）あったことに対し、有価証券及び投資有価証券の取得による支出が111億46百万円（同100億81百万円減）、有形固定資産の取得による支出が32億71百万円（同11億5百万円減）あったこと等であります。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度末における財務活動によるキャッシュ・フローは、43億55百万円の資金支出（同53億94百万円減）となりました。その要因は、配当金の支払額が26億14百万円（同32百万円減）、自己株式の取得による支出が16億14百万円（同1億45百万円増）あったこと等であります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1)仕入実績

セグメントの名称	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)		増減	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
クリーンケアグループ	28,904	44.5	28,315	44.4	588	2.0
フードグループ	32,275	49.7	31,986	50.2	288	0.9
その他	3,725	5.8	3,424	5.4	300	8.1
合計	64,904	100.0	63,727	100.0	1,176	1.8

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 当連結会計年度より、従来の「クリーングループ」について「クリーンケアグループ」へ名称変更いたしました。

なお、当該変更は、名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

3. クリーンケアグループでは生産を行っており、主なものは下記のとおりであります。

(クリーンケアグループにおける生産実績)

区分	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)		増減	
	回数 (ワッシャー)	構成比 (%)	回数 (ワッシャー)	構成比 (%)	回数 (ワッシャー)	増減率 (%)
マット	1,328,219	81.3	1,298,612	81.7	29,607	2.2
モップ	237,895	14.6	228,745	14.4	9,150	3.8
ロールタオル	36,019	2.2	32,594	2.1	3,425	9.5
ウエス	31,427	1.9	28,780	1.8	2,647	8.4
合計	1,633,560	100.0	1,588,731	100.0	44,829	2.7

### (2)受注実績

該当事項はありません。

### (3)販売実績

セグメントの名称	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)		増減	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
クリーンケアグループ	115,661	65.2	112,177	65.6	3,483	3.0
フードグループ	51,112	28.8	48,807	28.5	2,305	4.5
その他	10,546	6.0	10,133	5.9	413	3.9
合計	177,320	100.0	171,118	100.0	6,202	3.5

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. セグメント間の取引につきましては、相殺消去しております。

3. 当連結会計年度より、従来の「クリーングループ」について「クリーンケアグループ」へ名称変更いたしました。

なお、当該変更は、名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

### 3【対処すべき課題】

当社グループの課題は、お客様から一層の支持を得られる企業となるため現状を改革し、数年低迷している業績を再び成長軌道に乗せることと考えております。

平成23年3月期から平成24年3月期にかけて、中期経営方針の基本方針に基づき、お客様のより近くでご期待にお応えするために、事業の運営責任を各地域本部に移譲し、お客様視点に立った取り組みに注力してまいりました。しかし、昨年3月の東日本大震災の発生、原油や穀物相場の高騰、更には、欧州債務危機の拡大に伴う円高等、当社グループを取り巻く環境はめまぐるしく変化しており、そのような中で課題を解決していくためには、改革に主眼を置いた経営方針を策定することが不可欠であるとの考えから、平成25年3月期を初年度とする3カ年の新たな「中期経営方針」を策定いたしました。

この新中期経営方針では、時代の潮流の一步先を行くための“改革”を担う「本社・本部」と、それぞれの展開地域でお客様から求められていることを確実に実行する「地域本部」が両輪となって、一步一步着実に課題解決に取り組めます。平成25年3月期はその初年度として、全ての事業をお客様目線で見直すことを徹底してまいります。

#### [クリーンケアグループ]

平成23年3月期に、お客様ニーズに総合的且つ迅速にお応えすべく、従来の“事業単位”組織から、家庭市場・事業所市場の“市場別”組織へと移行しました。更に、新中期経営方針の初年度である平成25年3月期には、商品・サービスの開発や仕組みの構築を事業横断的に行えるよう、本社「事業(本)部」を“機能別”に改組し、ダストコントロール事業、ケアサービス事業、ドリンクサービス事業を統合して「クリーン・ケア事業本部」としました。教育・企画・開発を強化し、グループ総合力を高めてまいります。「地域本部」は、引き続き“市場別”組織とし、それぞれの展開地域の実情・特性に合わせた独自の販売促進施策を企画・立案、推進してまいります。また、全国9地域本部を東日本と西日本に括り、それぞれに担当取締役を配置することで、より迅速な意思決定を行ってまいります。

##### (家庭向け商品・サービス)

多様化する生活環境に応じた商品の開発、変化する消費者のライフスタイル等に対応できるシステムの導入等、お客様のニーズに応える商品・サービスの拡充に取り組んでまいります。

##### (事業所向け商品・サービス)

業種・業態・規模等によって異なるニーズに対応できる商品・サービスの開発に注力すると共に、営業力の強化に取り組めます。一方で、製造から営業まで一貫した拠点を各地に設置し、価格弾力性をより一層高めることにより、競争力強化に努めてまいります。

##### (役務提供サービス)

お客様の要望にきめ細やかに応え、且つ、高品質のサービスを提供できる体制作りとサービススタッフの教育・育成に力を注いでまいります。とりわけ、近年ニーズが高まる家事代行等について、サービス可能エリアの拡大、スタッフ数の増員等に更に注力し、需要変動に対応可能なサービス供給体制を構築してまいります。

#### [フードグループ]

常に安全で安心な商品をお届けすること、当社が展開する店舗でしか味わえない“おいしさ”と“感動”を提供すること、いつでも近くでご利用いただけることに徹底して取り組みます。

ミスタードーナツにおいては、「こころをまあるく」という新たなスローガンを策定し、ブランド価値を再びアピールすると共に、素材・製法・食感等、クオリティを追求し、ミスタードーナツにしかない“おいしさ”の提供とお客様がくつろげる環境の整備に注力してまいります。また、お客様の要望や利用動機に合わせたバラエティに富む商品の開発、立地条件に応じた様々な店舗の出店を可能にする店舗フォーマットの開発とその展開を推進します。

一方店舗では、今までの画一的な運営ではなく、時間帯別メニューの提供やショップ毎のお客様の利用特性に応じた品揃え等、多様化するお客様のご要望に柔軟に対応できる体制を強化し、一層の成長を目指してまいります。

[新規事業開発と海外展開強化]

将来の柱となる新たな事業を開発することは重要課題の一つです。当社の強みを活かせる新規事業、既存事業の周辺事業等の開発を引き続き積極的に行ってまいります。

また、海外、特にアジア地域の展開強化も積極的に推進してまいります。ダストコントロール事業は現地優良企業との合弁で本年3月に韓国での展開を開始しました。ミスタードーナツは昨年8月マレーシアへの進出を果たし、今後は、原材料の現地調達を進め、市場に合った商品開発と販売価格を実現し、収益性を高めてまいります。

#### 4【事業等のリスク】

以下におきまして、当社グループ（当社及び当社の関係会社）の事業展開及びその他に関してリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。当社グループは、これらのリスクの可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。ただし、以下は当社グループに関する全てのリスクを網羅したのではなく、記載したリスク以外のリスクも存在します。かかるリスク要因のいずれによっても、投資家の判断に影響を及ぼす可能性があります。

なお文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社が判断したものであります。

##### (1) ビジネスモデル（フランチャイズ方式）について

###### 加盟店との関係について

当社グループにおける事業展開は、主としてフランチャイズ方式を中心に展開しており、加盟店に対し、経営指導、事業運営上必要な事業システム及びノウハウ、商品、資器材、印刷物等の提供等を行い、加盟店は、お客様に対して当社グループの指定した商品の販売、サービスの提供を行っております。当社グループでは、当社グループ及び加盟店の収益向上のために必要な新商品・サービスの開発・導入、新規出店、既存店の改装等の施策を計画、実施しておりますが、これら施策の実行には加盟店の理解・協力、資金負担等が必要な場合があります。加盟店の理解等を得られない場合には、計画の中止又は遅延の場合もあります。また、加盟店との間にトラブル等が発生した場合、加盟店の離脱、訴訟の発生、当社グループの信用力の低下等により、当社グループの事業及び経営成績が影響を受ける可能性があります。

###### 法的規制について

当社グループは、フランチャイズ方式による店舗展開に関して中小小売商業振興法、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（以下「独占禁止法」）及び「フランチャイズ・システムに関する独占禁止法上の考え方について」（平成14年4月24日公正取引委員会）等の規制を受けております。従いまして、これらの法令等の改廃、新たな法令等の制定により当社グループの事業及び経営成績が影響を受ける可能性があります。

##### (2) クリーンケアグループに係るリスクについて

###### 事業環境について

クリーンケアグループでは、マット・モップ等の清掃美化関連商品のレンタルを主とするダストコントロール事業を中核に、ハウスクリーニング、家事代行サービス、害虫駆除・予防サービス、樹木・芝生管理サービス等の清掃美化関連役務提供事業（以下、ケアサービス）を、一般家庭（ホームサービス）と事業所（ビジネスサービス）のマーケット別に展開しております。

ダストコントロール事業は、ホームサービスにおいては、成人女性の在宅率低下、使い捨て商品の普及等により、また、ビジネスサービスにおいては、事業所数の減少、企業の経費削減意識の浸透等により、市場規模は減少傾向があると推測しております。一方、ケアサービスは、ホームサービス、ビジネスサービス共にアウトソーシングニーズの増大による市場拡大を見込んでおります。

当社グループでは、商品開発、販売チャネルの拡大、決済方法の多様化やケアサービスにおいては新規加盟店の募集等により事業拡大を図っていく方針であります。

また当社グループ及び加盟店では、高齢者生活支援サービス（以下、ホームインステッド事業）を提供しておりますが、高齢者人口の増加等による市場拡大を見込んでおり、新規加盟店の募集等による事業拡大を図る方針であります。

しかしながら、各事業に関連する市場動向、競合の状況、お客様ニーズの変化等によって、当社グループの事業及び経営成績が影響を受ける可能性があります。

###### 環境保護について

ダストコントロール商品は洗浄工程等を経て複数回のレンタルを行っております。洗浄工程では薬剤と大量の水を使用しておりますが、当社グループ及び委託先では、薬剤の使用量削減と水の再利用等による環境負荷の低減に努めております。しかしながら、当社グループ又は委託先において水質汚濁防止法等の法的規制に違反する事象又は何らかの問題が生じる、或いは、環境保護に係る法的規制等が強化された場合、当社グループの事業及び経営成績が影響を受ける可能性があります。

また、感染症発病地域へレンタルした商品の再利用が、二次感染源になるとの風評被害を受ける可能性もあります。

#### 製商品の安全性について

当社グループでは、清掃用資器材、キャビネットタオル、トイレタリー商品、天然水等のドリンク商品、家庭用電気製品、化粧品や健康食品等について安全性を確認した上でレンタル又は販売を行っておりますが、これら製商品に何らかの品質上の問題が発生した場合、当社グループへの損害賠償請求や当社グループに対する信用の低下等により、当社グループの事業及び経営成績が影響を受ける可能性があります。

#### 特定の製品の製造元について

モップの新布については、製造技術に関する特異性及びコストダウンの観点から、当社の子会社である株式会社和倉ダスキン1社にて製造しております。また、オーダーメイドマット（お客様特注品マット）については、製造工程及び技術の特異性の観点から、当社の子会社である株式会社小野ダスキン1社にて製造しております。このため予期せぬ天災地変等でこれらの会社での製品の製造が困難になった場合には、当社グループの事業及び経営成績が影響を受ける可能性があります。

#### 法的規制について

ホームサービス、ビジネスサービスで展開している事業は、特定商取引に関する法律、薬事法、クリーニング業法、下請代金支払遅延等防止法等の規制を受けております。また、ダストコントロール事業は、独占禁止法に基づき、現在、公正取引委員会から独占の状態の国内総供給価額要件及び市場占拠率要件に該当すると認められる事業分野に指定されております。また、ケアサービスは、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律、医療法等の法的規制を受けております。従いまして、これらの法令等の改廃、新たな法令等の制定、当社グループの違反に対する行政指導等により当社グループの事業及び経営成績が影響を受ける可能性があります。

#### サービスの提供について

当社グループのホームインステッド事業の利用者は、主に高齢者等であり、サービス提供による不測の事故が起こる可能性もあります。当社グループでは、事故の発生防止や緊急時対応等、教育研修による徹底的なスキルアップ、マニュアルの整備等に積極的に取り組んでおりますが、万一サービス提供中に事故等が発生し、過失責任が問われるような事態が生じた場合は、当社グループの事業及び経営成績が影響を受ける可能性があります。

#### サービスの品質について

ケアサービスでは、当社グループ又は加盟店からサービススタッフをお客様の住居又は事業所に派遣してサービスを提供しております。サービススタッフは一定の技能を必要とすることから、当社グループでは研修制度、ライセンス制度によりサービススタッフのサービス品質の向上及び均一化を図っております。また、サービスの提供に用いる資器材等については安全性を確認した上で、研修を受けたサービススタッフが用いることとなっております。しかしながら、サービススタッフが提供するサービスに瑕疵があった場合やサービスに用いる資器材等に何らかの問題が発生した場合、更に、これらのサービスを原因として健康被害等が発生した場合には、当社グループへの損害賠償請求や当社グループに対する信用の低下等により、当社グループの経営成績が影響を受ける可能性があります。また、一定の技能を有するサービススタッフが十分に確保できない場合、又はサービススタッフ等を確保するためのコストやサービス後の処理廃棄物を処理するためのコストが上昇した場合には、当社グループの事業及び経営成績が影響を受ける可能性があります。

### (3)フードグループに係るリスクについて

#### 事業環境について

フードグループの主要事業であるミスタードーナツ事業は、ドーナツを中心としたメニューにより当社グループ及び加盟店におきまして多店舗展開しておりますが、外食産業の市場規模につきましては減少傾向にあるものと推測しております。当社グループでは、ショッピングセンター等への新規出店、既存店舗の改装・再配置、付加価値の高いメニューの開発、首都圏向けの店舗フォーマットの開発、アジア市場への進出等により当社グループの事業の拡大を図っていく方針であります。市場動向、競合の状況、消費者の嗜好の変化や原材料等の高騰等によっては当社グループの事業及び経営成績が影響を受ける可能性があります。

#### 食品の安全性について

当社グループでは、最近の食品の安全性に対する社会的な要請の高まりを踏まえて、衛生管理ガイドの整備、自主的に外部検査機関を使った定期検査を実施する等、食品の安全性を確保するための社内体制を構築し、運用しております。しかしながら、当社グループ又は加盟店の店舗において食中毒が発生したり、食品衛生法等の法的規制に違反する事象が生じた場合、損害賠償金の負担の発生、これらの店舗の全部又は一部の営業停止や当社グループに対する信用の低下等により、当社グループの事業及び経営成績が影響を受ける可能性があります。

#### 特定の製品の仕入先について

ミスタードーナツ事業における製粉については、ドーナツ加工の基となるフォーミュラー（製粉の配合割合）に関する情報漏洩防止の観点から、日本製粉株式会社1社から仕入れております。これにより当社は、事実上安定した品質の製粉を確保することができ、価格に関しましても、市場に連動した適正価格で取引することが可能となっております。同社との取引条件の変更等によっては、当社グループの事業及び経営成績が影響を受ける可能性があります。

#### 法的規制について

フードグループで展開する事業は、食品衛生法、不当景品類及び不当表示防止法等の法的規制を受けております。従いまして、これらの法令等の改廃、新たな法令の制定、当社グループの違反に対する行政指導等により当社グループの事業及び経営成績が影響を受ける可能性があります。

### (4)個人情報について

当社グループ及び加盟店は、事業運営に当たりお客様の個人情報を取得、利用しており、「個人情報保護規程」をはじめとする諸規程の制定、役員・従業員への研修の実施、加盟店を対象とした勉強会の開催、システムのセキュリティ対策等個人情報の管理体制を構築・運用しております。しかしながら、外部からの不正アクセス等により個人情報の流出等の重大なトラブルが発生した場合、当社グループへの損害賠償請求や当社グループに対する信用の低下等により、当社グループの事業及び経営成績が影響を受ける可能性があります。

## 5【経営上の重要な契約等】

### (1)フランチャイズ契約

当社は、加盟店と共に全国的な営業網を確立し、永続的な信頼関係を保持するために、事業内容の基本的な事項並びに相互の利益と本部及び加盟店の権利・義務等を明確にすることを目的として契約を締結しております。主な契約は次のとおりであります。(注)1

セグメント名称	契約の名称	加盟金 (千円)	保証金 (千円)	契約期間
クリーンケア グループ	ダスキン愛の店ダストコントロールフランチャイズチェーン契約	595	200	締結日から3年間(注)2 (ただし3年目の途中で3月31日を迎える場合はその日まで)
	ダスキン・フランチャイズチェーン支店契約			締結日から3年間(注)3 (ただし3年目の途中で3月31日を迎える場合はその日まで)
	ダスキンサービスマスターフランチャイズチェーン契約	1,500	1,000	締結日から3年間(注)3 (ただし3年目の途中で3月31日を迎える場合はその日まで)
フードグループ	ミスタードーナツチェーン契約	4,000		5年間(注)4

(注)1. 上記につきましては、現在の契約内容であります。既存の契約につきましては、契約時期により、加盟金、保証金が異なる場合があります。

2. 期間満了30日前までに当社又は加盟店の何れか一方からの異議がない場合は1年間自動更新
3. 期間満了3ヵ月前までに当社又は加盟店の何れか一方からの異議がない場合は1年間自動更新
4. 期間満了6ヵ月前までに当社又は加盟店の何れか一方からの異議がない場合は2年間自動更新

### (2)技術提携契約

契約 会社名	相手方		契約名称	契約概要	契約期間
	名称	国名			
当社	三井物産株式会社	日本	業務提携契約	両者の持つ経営資源やノウハウを結集し、両者対等の立場で協力関係を構築することによって両者の企業基盤の拡充と競争力強化を図り、より一層の発展を期する。	平成21年9月7日より1年間 以降1年毎の自動更新
当社	ジョンソン・プロフェッショナル株式会社	日本	業務提携契約	洗剤、ワックス等の製品の開発・販売に関する契約	自平成10年1月1日 至平成14年12月31日 以降1年毎の自動更新
当社	統一超商股?有限公司	台湾	合併契約	合併事業契約(合併企業名: 楽清服務股?有限公司)	- (注)1
当社	日本製粉株式会社	日本	取引基本契約	原材料ノウハウの開示及び製造委託に関する契約	自昭和47年4月1日 至昭和49年3月31日 以降1年毎の自動更新
当社	統一超商股?有限公司	台湾	合併契約	合併事業契約(合併企業名: 統一多拿滋股?有限公司)	- (注)2
当社	統一超商香港控股有限公司	中国	合併契約	合併事業契約(合併企業名: 統一多拿滋(上海)食品有限公司)	- (注)4
MISTER DONUT KOREA CO.,LTD.	FOODMERCE CO.,LTD.	韓国	株主間契約	合併事業契約(合併企業名: PULMUONE DUSKIN CO.,LTD.)	- (注)5

契約会社名	相手方		契約名称	契約概要	契約期間
	名称	国名			
当社	株式会社モスフードサービス	日本	資本・業務提携契約	それぞれの加盟店及び顧客の利便性の向上、それぞれの得意分野や経営資源の有効活用により、両社の外食事業を一層発展させる。	自 平成20年 2月20日 至 平成21年 2月19日 以降 1年毎の自動更新
当社	The ServiceMaster Company	米国	住宅・商業施設クリーニングサービス製品製造ライセンス第二更新契約	サービスマスター業務の実施許諾契約	自 平成 5年12月31日 至 平成15年12月31日 (注) 3
当社	ARAMARK MANAGEMENT SERVICES LIMITED PARTNERSHIP	米国	ヘルスケアマネジメントサービス国際ライセンス更新契約	ヘルスケアマネジメント業務の実施許諾契約	自 平成 4年 4月 1日 至 平成14年 3月31日 (注) 3
当社	The ServiceMaster Company	米国	ターミニックスサービス国際ライセンス更新契約	ターミニックス業務の実施許諾契約	自 平成 9年 5月11日 至 平成19年 5月10日 以降10年毎の自動更新
当社	The ServiceMaster Company	米国	メリーメイドサービス国際ライセンス更新契約	メリーメイド業務の実施許諾契約	自 平成10年11月12日 至 平成20年11月11日 以降10年毎の自動更新
当社	The ServiceMaster Company	米国	トゥルグリーンサービス国際ライセンス契約	トゥルグリーン業務の実施許諾契約	自 平成10年10月 9日 至 平成20年10月 8日 以降10年毎の自動更新
当社	株式会社サカイ引越センター	日本	業務提携契約	相互の専門分野を有効に組み合わせる新たなサービスを創出する、及び需要を発掘する。	自 平成20年 1月28日 至 平成21年 3月31日 以降 1年毎の自動更新
当社	株式会社ニチイ学館	日本	資本業務提携契約	シニアケアを主とする事業領域において、それぞれの得意分野や経営資源を有効に活用し、サービス・技術の向上を図り、それぞれの事業を一層発展させる。	自 平成21年 1月 8日 至 平成22年 1月 7日 以降 1年毎の自動更新

- (注) 1 . 契約締結日は平成 6年 8月25日であり、期間の定めはありません。  
2 . 契約締結日は平成16年 8月17日であり、期間の定めはありません。  
3 . 契約終了時の 2年前までに当社から本契約を更新する旨の書面による通知を行うことにより10年間更新。  
4 . 契約締結日は平成20年12月23日であり、合併会社の経営期間は合併会社の当初の設立日である平成11年 6月23日から平成41年 6月22日の30年間です。  
5 . 契約締結日は平成24年 2月 1日であり、期間の定めはありません。

(3) 株式会社ダスキンサーヴ北関東及び株式会社ダスキンサーヴ近畿への会社分割

当社は、平成24年2月23日開催の当社取締役会において、当社の宮原支店及び三芳支店が営む全ての事業に関する権利義務を当社の完全子会社である株式会社ダスキンサーヴ北関東（以下、「サーヴ北関東」）に、また、当社の横大路支店、深井支店、住道支店、九条支店、ジェームス山支店及び御影石町支店が営む全ての事業に関する権利義務を会社分割し当社の完全子会社である株式会社ダスキンサーヴ近畿（以下、「サーヴ近畿」）に承継させる決議を行い、各々の会社と会社分割契約を平成24年2月24日に締結いたしました。

本会社分割は、当社においては会社法第784条第3項に規定する簡易分割であること、サーヴ北関東及びサーヴ近畿においては会社法第796条第1項に規定する略式分割であることから、それぞれ分割承認株主総会を開催いたしません。

会社分割の概要は次のとおりであります。

会社分割の目的

当社は、創業以来、生活者・消費者の暮らしを心豊かに、便利に、快適にするサービスを事業としており、中核である訪問販売事業領域において、環境衛生・美化関連の商品レンタル及び役務提供サービスを長年に亘り提供して参りました。

また、我が国におきましては極めて早い段階から「フランチャイズシステム」を導入し、全国に広がる販売ネットワーク網を確立するとともに、商品・サービスの開発・検証や人材育成の場として、一部地域におきましては、直営店や子会社による展開も行っておりましたが、今般、今まで以上にお客様視点に立った事業運営に注力するため、直営支店と子会社による販売拠点との機能を明確化し、分離することにいたしました。

直営支店は今後、商品・サービスの開発・検証や人材育成に特化することといたします。一方、子会社拠点は、それぞれの地域に根差した政策推進を担うこととし、今まで以上に迅速、且つ、きめ細かくお客様のご期待に応えて参りたいと考えております。

分割方式

当社を分割会社とし、サーヴ北関東及びサーヴ近畿を承継会社とする吸収分割であります。

会社分割の期日

平成24年4月1日

会社分割に際して発行する株式及び割当

本会社分割に際して株式の割当、その他の対価の交付は行われません。

承継会社が承継する権利義務

サーヴ北関東は当社の宮原支店及び三芳支店の資産、負債、その他の権利義務及び契約上の地位を、サーヴ近畿は、当社のジェームス山支店、御影石町支店、横大路支店、住道支店、深井支店及び九条支店の資産、負債、その他の権利義務及び契約上の地位を、承継いたします。

分割する資産、負債の状況（平成24年3月31日現在）

当社がサーヴ北関東に分割する資産の額は154百万円、負債の額は54百万円であり、サーヴ近畿に分割する資産の額は428百万円、負債の額は172百万円であります。

承継会社の概要

商号 株式会社ダスキンサーヴ北関東  
事業内容 清掃、衛生用品のレンタル及び販売等  
資本金 100百万円

商号 株式会社ダスキンサーヴ近畿  
事業内容 清掃、衛生用品のレンタル及び販売等  
資本金 50百万円

(4) 株式譲渡契約

当社は、蜂屋乳業株式会社の全株式を平成24年5月17日付をもって取得することを平成24年3月22日開催の取締役会において決議し、同日株式譲渡契約を締結しました。

## 6【研究開発活動】

当企業集団では、主に当社が提供する商品及びサービスに関連する清掃及び洗浄関連商品と加工技術の研究開発に取り組んでおり、品質・環境対策を重視した活動を行っております。

また、当社が提供する商品・サービスの開発段階における安全性、信頼性、使用価値性、環境への影響についての検査・試験等の商品検査活動に取り組むと共に、法令上の確認や商品表示等の検査も行っております。

### (1)研究開発及び商品検査方針

#### 研究開発方針

当社は、消費者に対して当社が届けるトータルクリーンケアに関する商品・サービスについて、安心且つ信頼のおけるダスキンブランドの確立を目指しており、基盤技術深耕、新商品開発、商品の品質向上及び環境対策を中心とした研究開発活動に取り組んでおります。

この目的達成のために、下記事項を基本方針として商品の研究開発に取り組んでおります。

- ・消費者の立場に立ち、本物志向の商品開発技術を確立する。
- ・消費者のニーズ、変化を敏速且つ的確に把握して業界の先取りを行う。
- ・商品・サービスに関連する基盤技術の研究を行う。
- ・商品、技術に関する情報を即座に収集分析し、旧来の枠にとらわれない新しい技術を積極的に導入する。
- ・商品の機能、性能の他に、安全・安心はもとより、人体及び環境に限りなくやさしいことをテーマとして追求する。

また、当社の主力はレンタル商品であり、商品を繰り返し使用することで、資源の有効活用ができ、環境配慮と商品原価の低減が図れます。従いまして、使用回数を延ばすことを目的として、使用済みレンタル商品の加工工程、薬剤等の研究にも取り組んでおります。

#### 商品検査方針

消費者に対して当社が届ける全ての商品・サービスについて、安心且つ信頼のおけるダスキンブランドを確立するために、顧客満足、生活者保護、遵法性、環境保全の4つの視点で、「外観、構造、成分における安全性」「性能、効果」「使い勝手」「信頼性、耐久性」「品質表示・ちらし」「取扱説明書」の6つのポイントを中心に、商品検査及び分析・衛生検査業務を行い、お客様満足の追求を行っております。

### (2)研究開発及び商品検査体制

#### 研究開発体制

当社の開発研究所は、商品を研究、開発する「商品研究開発部」と、将来を担う商品の基礎技術の研究を行う「基礎研究部」の2部門構成であり、平成24年3月31日現在、商品研究開発部は部長を含め19名、基礎研究部は部長を含め15名となっており、本部長1名、嘱託2名、実験助手5名を併せて総勢42名の体制となっております。

#### 商品検査体制

平成24年3月31日現在、商品検査センターは「信頼性・使用価値試験室」と「安全性・分析試験室」の2室構成であり、部長を含め13名、実験助手1名の総勢14名の体制となっております。

(3)当連結会計年度における主な成果

研究開発部門

a. 商品研究開発関連

家庭用品関連では主に、住まいと家族の健康をお届けする新しいお掃除ツールの開発と改良を行いました。頑固な汚れを除去して傷もつきにくい最適繊維と研磨粒子の組み合わせを研究し清掃用スポンジに応用しました。一方の事業所用品関連では、洗浄耐久性に優れたプリント技術の研究を実施し、オーダーメイドマットの表現領域を拡大しました。また、吸水機能を付与した新規パイルの研究を行い、糸の撚り合わせ構造の吸水性に及ぼす影響の解析、屋外での繰り返しの使用にも耐える繊維の研究、高機能を有する除菌洗浄消臭材の研究に取り組みました。当連結会計年度の主な成果は以下のとおりであります。

家庭用品関連

- ・極太ナイロン繊維と特殊研磨材を配合した清掃用スポンジ「IH・ガラスストップクリーナー」
- ・玄関を明るく演出する家庭用玄関マットのデザインをリニューアル

事業所用品関連

- ・多様化するお客様のデザインニーズを再現したプリントタイプのオーダーメイドレンタルマット「インサイドマット」を導入
- ・便器周りのタイルの目地や壁面にしみ込んだ臭いを消臭、24時間抑制する「トイレ消臭持続剤」を導入

b. 基礎研究関連

当連結会計年度は、主に清掃効果の基礎研究として、医師と共同で実家庭での商品・サービス利用後のアレルギー調査、低減方法の研究に着手しました。ハウスダストに含まれるカビ、菌、ダニ、アレルギー物質の分布実態を調査し、低減薬剤と低減方法の研究を行いました。洗剤の人に対する安全性評価に関して、試験細胞を用いた評価方法の研究を行い、洗剤成分の薬剤選定方法として利用しました。

また、天然アレルギー抑制物質調査等を外部研究機関と共同で研究を行い、学会にも積極的に参加し、専門技術情報の取得に努めました。

## 商品検査部門

### a．商品検査の実施

新たに開発した全ての商品・サービス及び改良商品に関して商品検査を実施し、開発担当者への改善提言を通じて、設計及び品質に由来するクレーム発生の未然防止を図っております。当連結会計年度の検査数は、合計114件（506アイテム）でした。

### b．表示検査の実施

新規開発やリニューアルに伴って新しく作製した商品ラベル、ちらし、取扱説明書、商品ガイドについて表示検査を実施し、改善提案を行いました。当連結会計年度の検査数は510件でした。

### c．品質保全活動

(a)キャビネットタオル：毎月全加工工場を対象として抜き取り検査による消毒レベルの確認を行い、衛生性品質の保全を行っております。

(b)フードグループ原材料・商品の自主検査：当社が提供する食品の安全・安心の確保を目指して、フードグループが取扱う原材料やヘルス&ビューティ事業等で取り扱う食品について検査を実施しました。当連結会計年度は合計215アイテムについての検査を実施し、仕入先共々品質向上に努めました。また、原材料86アイテムについて、開封後の店内使用期限の設定を実施し、32アイテムについての工程抜き取り検査・購買検査を実施し安全性の確認を行いました。

### d．技術支援の実施

各事業部からの要請に基づき、製品評価・分析・衛生の専門的立場からの商品開発時の測定支援・リスク抽出及びクレーム原因調査を実施し、開発商品の完成度向上及び製品リスクの低減に努めると共に品質標準／試験標準／設計標準の策定を行いました。

### e．技術基盤の拡充

(a)信頼性・使用価値試験室では、株式会社ヒューマンインターフェイスの協力を得て誤使用モードの抽出法の研究を行い、リスク抽出のスキルアップ及び精度の向上を図りました。

(b)安全性・分析試験室の分析グループでは、食品残留農薬、添加物、味、臭いに関わる成分等の分析要求に応えるため、新たな分析機器（液体クロマトグラフ質量分析装置LC-MS/MS）を導入し、微量分析の自主検査体制の整備を進めております。

(c)安全性・分析試験室の微生物試験グループでは、引き続き遺伝子増幅技術を用いた微生物迅速検査に取り組んでおります。

## 研究開発費

当連結会計年度の研究開発費の総額は7億73百万円であります。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 財政状態の分析

#### 流動資産

当連結会計年度末における流動資産残高は594億1百万円となりました。前連結会計年度末と比較して9億62百万円減少しております。その要因は、短期運用の有価証券が51億35百万円増加したことに対し、現金及び預金が31億32百万円、受取手形及び売掛金が14億62百万円、繰延税金資産が6億76百万円減少したこと等であり

#### 固定資産

当連結会計年度末における固定資産残高は1,379億15百万円となりました。前連結会計年度末と比較して5億97百万円減少しております。その要因は、投資有価証券が8億61百万円増加したことに対し、繰延税金資産が14億18百万円減少したこと等であり

#### 流動負債

当連結会計年度末における流動負債残高は343億23百万円となりました。前連結会計年度末と比較して31億13百万円減少しております。その要因は、未払法人税等が7億49百万円、買掛金が7億5百万円、災害損失引当金が6億71百万円減少したこと等であり

#### 固定負債

当連結会計年度末における固定負債残高は133億88百万円となりました。前連結会計年度末と比較して5億14百万円増加しております。その要因は、退職給付引当金が8億52百万円増加したことに対し、長期借入金の残高が94百万円減少したこと等であり

#### 純資産

当連結会計年度末における純資産残高は1,496億4百万円となりました。前連結会計年度末と比較して10億39百万円増加しております。その要因は、当期純利益45億83百万円と剰余金の配当26億12百万円との差引等により利益剰余金が19億71百万円、その他有価証券評価差額金が7億34百万円増加したことに対し、自己株式を16億14百万円取得したこと等であり

### (2) キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析につきましては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

#### キャッシュ・フロー指標のトレンド

当企業集団のキャッシュ・フロー指標は次のとおりであります。

	平成21年3月期	平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期
自己資本比率(%)	73.2	73.4	74.3	75.4
時価ベースの 自己資本比率(%)	53.8	54.8	50.6	53.9
キャッシュ・フロー対有利 子負債比率(年)	0.4	0.3	0.0	0.0
インタレスト・カバレッジ ・レシオ(倍)	141.3	243.8	195.7	2,221.7

(注) 1. 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値を基に、それぞれ下記の算式により算出しております。

自己資本比率：(純資産 - 少数株主持分) ÷ 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 ÷ 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 ÷ 営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー ÷ 利払い

2. 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

3. 営業キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。

4. 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち、利子を支払っているすべての負債を対象としております。

5. 利払いは、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

## (3) 営業成績の分析

当連結会計年度（以下、当期）の連結売上高は、個人消費の回復の遅れ、事業所等の経費節減傾向の継続の影響を受け、前連結会計年度（以下、前期）から62億2百万円、3.5%減少し、1,711億18百万円となりました。当期よりダストコントロール事業におけるサブライセンス契約を変更したことによる減収が約25億円あるため、この影響を除外した実質的な減収は、約37億円となります。

クリーンケアグループは、化粧品製造販売2社を平成22年10月に連結子会社化したことによる増収及びダストコントロール事業におけるサブライセンス契約を変更したことによる影響を除いた既存事業の実質的な減収は約17億円となります。このセグメントが減収となった主な要因は、事業所向けのサービスを手掛けるビジネスサービスが依然として苦戦していることであります。ビジネスサービスは、「空間清浄機デオ」が好調に推移したものの、主力のマット商品をはじめとしてほぼ全ての商品の売上が減少しました。また、役務提供サービスについても、依然低調な状況が続いております。

一方のホームサービスは、空気清浄機、フィルター商品等の売上が前期を下回りましたが、フロアモップとダストクリーナーを組み合わせた当社発の簡単手軽な“新おそうじスタイル”が徐々に受け入れられつつあることに加えて、デザイン性、機能性を向上させたフロアモップの新商品「L a L a」が牽引し、モップ商品の売上が前期を上回りました。更には、役務提供サービスが、節電意識の高まりを背景に大きく受注件数を伸ばしたエアコンクリーニングサービスをはじめとして、各メニューが伸長した結果、ほぼ前期並みの売上高となりました。

フードグループの中心であるミスタードーナツ事業は、「焼きドーナツ」への参入や駅構内へのキッチンレス店舗の出店等、新たな試みにチャレンジしたものの、東日本大震災以降の消費マインド減退の影響を大きく受けた結果、大きな減収となりました。

連結営業利益は、前期から10億95百万円、10.0%減少し、98億41百万円となりました。当期は、売上高の減少に伴って売上総利益が減少したことに加え、原価率が悪化したことを主因に減益となりました。特に、麦価等の上昇に伴うミックス価格の上昇、フライオイル価格の上昇等に加えて、原材料の廃棄が発生したこと等でミスタードーナツ事業の原価率が悪化しました。

連結経常利益は、前期から10億3百万円、8.0%減少し、116億9百万円となりました。前期中に借入の返済を進めたこと等で金融収支が改善しております。

連結当期純利益は、前期から6億65百万円、12.7%減少し、45億83百万円となりました。経常利益段階では減益となったものの、災害による損失が減少したことや資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額が無くなったこと等で特別損益が改善した結果、税金等調整前当期純利益は11億86百万円、13.2%の増益になった一方で、法人税率引下げに伴い繰延税金資産を取り崩し、法人税等調整額に計上したこと等で税金費用等も18億51百万円増加した結果、6億65百万円の減益となったものです。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の総額（無形固定資産、敷金及び差入保証金含む）は65億41百万円であり、主なものは次のとおりであります。

クリーンケアグループにおいては、ネットワーク店舗業務システム構築のために9億53百万円の投資を実施、工場生産設備の増設・更新等で7億87百万円の投資を実施しました。

フードグループにおいては、ミスタードーナツの情報システム構築のために22億94百万円の投資を実施しました。

#### 2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

(平成24年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (名)	
			建物及び構 築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他		合計
全国地域本部・エリア・支 店 (札幌市西区他) (注)1,3	クリーンケ アグループ	管理及び販売業務 用設備	1,454	21	7,271 (26) [138]	7,808	16,555	780 (469)
生産本部 (大阪府吹田市他)	クリーンケ アグループ	マット・モップ等 洗浄設備他	4,278	212	5,998 (168)	627	11,116	60 (10)
横浜中央工場 (横浜市鶴見区)	クリーンケ アグループ	マット・モップ等 洗浄設備他	798	334	3,142 (11)	5	4,279	27 (79)
大阪中央工場 (大阪府吹田市)	クリーンケ アグループ	マット・モップ等 洗浄設備他	1,621	393	4,615 (9)	1,010	7,640	91 (84)
ミスタードーナツ本部 (大阪府吹田市他) (注)4	フードゲ ループ	菓子製造設備他	1,459	165	935 (4)	3,897	6,457	209 (6)
教育研修センター (大阪府吹田市)(注)5	本社 (共通)	教育研修設備	1,447	-	-	182	1,629	17 (0)
本社 (大阪府吹田市)	本社 (共通)	その他設備	2,684	10	172 (1)	2,428	5,295	523 (14)

(2) 国内子会社

(平成24年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
㈱ダスキンサー ヴ北海道他6社	本社 (札幌市豊平区他)	クリーン ケアグ ループ	管理及び販売業 務用設備他	122	0	231 (6)	137	492	453 (1,034)
アザレプロダク ツ㈱	本社・工場 (大阪府八尾市)	クリーン ケアグ ループ	化粧品製造設備 他	402	39	205 (1)	115	762	74 (0)
㈱和倉ダスキン	本社・工場 (石川県七尾市)	クリーン ケアグ ループ	モップ等製造設 備他	896	353	12 (1)	5	1,267	92 (30)
㈱小野ダスキン	本社・工場 (兵庫県小野市)	クリーン ケアグ ループ	マット等製造設 備他	416	351	-	18	786	115 (30)
㈱ダスキン プロダクト 北海道 道央中央工場	本社・工場 (北海道千歳市)	クリーン ケアグ ループ	マット・モップ 等洗浄設備他	1	70	-	4	76	11 (42)
㈱ダスキン プロダクト 北海道 道北工場	工場 (北海道旭川市)	クリーン ケアグ ループ	マット・モップ 等洗浄設備他	5	49	-	0	55	6 (32)
㈱ダスキン プロダクト 東北 仙台中央工場	本社・工場 (仙台市泉区)	クリーン ケアグ ループ	マット・モップ 等洗浄設備他	17	177	-	7	201	11 (36)
㈱ダスキン プロダクト 東関東 埼玉中央工場	本社・工場 (埼玉県三郷市)	クリーン ケアグ ループ	マット・モップ 等洗浄設備他	21	211	-	14	247	22 (72)
㈱ダスキン プロダクト 東関東 千葉東工場	工場 (千葉県茂原市)	クリーン ケアグ ループ	マット・モップ 等洗浄設備他	27	123	2 (2)	4	158	14 (36)
㈱ダスキン プロダクト 西関東 東京多摩中央工 場	本社・工場 (東京都八王子市)	クリーン ケアグ ループ	マット・モップ 等洗浄設備他	116	287	-	7	412	19 (135)
㈱ダスキン プロダクト 東海 愛知中央工場	本社・工場 (愛知県小牧市)	クリーン ケアグ ループ	マット・モップ 等洗浄設備他	14	236	-	12	263	14 (73)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
(株)ダスキン プロダクト 中四国 広島中央工場	本社・工場 (広島県山県郡 北広島町)	クリーン ケアグ ループ	マット・モップ 等洗浄設備他	56	50	-	3	110	20 (25)
(株)ダスキン プロダクト 中四国 愛媛工場	工場 (愛媛県西条市)	クリーン ケアグ ループ	マット・モップ 等洗浄設備他	108	65	-	11	185	25 (56)
(株)ダスキン プロダクト 九州 熊本中央工場	本社・工場 (熊本県上益城郡 御船町)	クリーン ケアグ ループ	マット・モップ 等洗浄設備他	21	209	-	1	232	34 (58)
(株)ダスキン プロダクト 九州 沖縄工場	工場 (沖縄県中頭郡 西原町)	クリーン ケアグ ループ	マット・モップ 等洗浄設備他	14	36	-	1	51	7 (18)
(株)どん	店舗他 (大阪府吹田市)	フードグ ループ	飲食店店舗設備 他	40	0	-	80	121	12 (34)
(株)エバーフレッ シュ函館	本社・工場 (北海道函館市)	フードグ ループ	菓子製造設備他	369	246	100 (6)	5	722	66 (1)
ダスキン共益(株)	本社 (大阪府吹田市)	その他	リース資産	-	2,532	-	2,229	4,762	14 (0)

(注) 1. 土地及び建物の一部を賃借しております。賃借料は14億円です。賃借している土地の面積については[ ]で外書をしております。

2. 従業員数欄の( )外書は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
3. 全国地域本部・エリア・支店の臨時従業員数には、アルバイト人員350名を含んでおりません。
4. ミスタードーナツ本部の従業員数には、直営店における従業員101名、臨時従業員627名を含んでおりません。
5. 教育研修センターの土地はミスタードーナツ本部の中に含めております。
6. 帳簿価額のうち「その他」の欄には、「工具、器具及び備品」の他に「無形固定資産」、「敷金及び差入保証金」等を含めております。

### 3【設備の新設、除却等の計画】

当企業集団の設備投資計画については、投資効率を総合的に勘案し、連結会社各社が個別に策定しております。計画策定に当たっては予算検討会議において提出会社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修計画は次のとおりであります。

#### (1) 重要な設備計画の新設、拡充、改修

##### 提出会社

事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額(百万円)		資金調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の増加能力
				総額	既支払額		着手	完了	
生産本部	大阪府吹田市	クリーンケアグループ	生産総合工場システム再構築	509	-	自己資金	平成24年3月	平成27年3月	(注)1

- (注) 1. 販売又は生産能力に重要な影響はありません。  
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

##### 国内子会社

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額(百万円)		資金調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の増加能力
				総額	既支払額		着手	完了	
ダスキン共益(株)	大阪府吹田市	その他	リースシステム再構築	270	128	自己資金	平成23年1月	平成24年10月	(注)1

- (注) 1. 販売又は生産能力に重要な影響はありません。  
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

#### (2) 重要な設備の除却、売却の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年6月25日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	66,294,823	66,294,823	東京証券取引所 大阪証券取引所 (各市場第一部)	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準の株式であり、単 元株式数は100株であ ります。
計	66,294,823	66,294,823		

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年3月29日 (注)	1,100,000	66,294,823		11,352		1,090

(注)平成24年3月22日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,100,000株を平成24年3月29日をもって消却し、発行済株式総数は66,294,823株となっております。

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		37	24	523	108	10	24,528	25,230	
所有株式数(単元)		118,670	3,207	188,971	57,353	549	293,386	662,136	81,223
所有株式数の割合(%)		17.92	0.49	28.54	8.66	0.08	44.31	100	

(注)自己株式2,009,339株は、「個人その他」に20,093単元、「単元未満株式の状況」に39株含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
三井物産株式会社	東京都千代田区大手町1丁目2番1号	3,500	5.27
ダスキン働きさん持株会	大阪府吹田市豊津町1番33号	2,121	3.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	2,061	3.10
小笠原 浩方	京都府京田辺市	2,005	3.02
日本製粉株式会社	東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目27番5号	2,000	3.01
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,607	2.42
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	1,200	1.81
日本水産株式会社	東京都千代田区大手町2丁目6番2号	1,125	1.69
株式会社モスフードサービス	東京都品川区大崎2丁目1番1号	1,051	1.58
ロイヤルホールディングス株式会社	福岡市博多区那珂3丁目28番5号	1,050	1.58
計		17,722	

(注)1. 当社は、自己株式を2,009,339株所有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2. 上記表中の は、すべて信託業務に係る株式数であります。

( 8 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,009,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 64,204,300	642,043	
単元未満株式	普通株式 81,223		
発行済株式総数	66,294,823		
総株主の議決権		642,043	

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ダスキン	大阪府吹田市 豊津町1番33号	2,009,300		2,009,300	3.03
計		2,009,300		2,009,300	3.03

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成23年2月24日)での決議状況 (取得期間 平成23年2月25日~平成23年6月21日)	1,000,000	1,750,000,000
当事業年度前における取得自己株式	284,000	444,043,500
当事業年度における取得自己株式	716,000	1,134,177,900
残存決議株式の総数及び価額の総額		
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)		
区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成23年5月13日)での決議状況 (取得期間 平成23年5月16日)	200,000	326,600,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	190,000	310,270,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	10,000	16,330,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	5.0	5.0
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	5.0	5.0

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成23年10月31日)での決議状況 (取得期間 平成23年11月1日)	200,000	306,400,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	110,000	168,520,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	90,000	137,880,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	45.0	45.0
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	45.0	45.0

( 3 ) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	845	1,309,730
当期間における取得自己株式	50	80,800

(注)当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

( 4 ) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式	1,100,000	1,738,979,000		
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	2,009,339		2,009,389	

(注)当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題と位置付け、安定した配当を每期継続的に行うことを基本方針とし、更に、経営成績及び今後の事業展開、健全な経営体質維持のために必要な内部留保の確保等を勘案の上、当期の配当額を決定しております。今後とも長期的に株主の皆様のご期待に沿う配当政策を進めて参ります。

当社は、年2回期末及び中間期末に剰余金の配当を行うことを基本方針としております。なお、期末配当の決定機関は、株主総会であります。また、中間配当につきましては、「取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる」旨を定款に定めております。

当期の期末配当につきましては、1株につき40円といたしました。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年6月22日	2,571	40

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度最高・最低株価】

回次	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	2,115	1,905	1,749	1,670	1,689
最低(円)	1,580	1,287	1,518	1,340	1,456

(注)最高・最低株価は東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	平成23年11月	平成23年12月	平成24年1月	平成24年2月	平成24年3月
最高(円)	1,584	1,545	1,519	1,561	1,689	1,686
最低(円)	1,488	1,461	1,473	1,487	1,510	1,621

(注)最高・最低株価は東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		山村 輝治	昭和32年 1月28日生	昭和57年 1月 当社入社 平成 7年 4月 当社支社支店連絡部長 平成 9年 4月 当社支社支店サポート本部長 平成15年 4月 株式会社ダスキンサーヴ静岡西代表取締役社長 平成15年12月 当社クリーンサービス事業本部長 平成16年 6月 当社取締役クリーンサービス事業本部副本部長 平成18年 4月 当社取締役ケアサービス事業本部、ヘルス&ビューティ事業部、ユニフォームサービス事業部、ドリンクサービス事業部担当 平成19年 4月 当社取締役ケアサービス事業本部、ホームインステッド事業部、レントオール事業部担当 平成21年 4月 当社代表取締役社長 現任	(注) 3	15
専務取締役	社長室、広報部、法務・コンプライアンス部、品質保証・リスク管理部、商品検査センター、フードチェーン開発部担当	宮島 賢一	昭和30年 3月16日生	平成 2年 5月 当社入社 平成 8年 4月 当社道東支社長 平成14年11月 当社北海道営業本部長 平成15年12月 当社クリーンサービス事業本部長 平成16年 6月 当社取締役クリーンサービス事業本部長 平成19年 4月 当社取締役クリーンサービス事業本部長兼ヘルス&ビューティ事業部、ユニフォームサービス事業部、ドリンクサービス事業部担当 平成20年 4月 当社取締役クリーンサービス事業本部、法人営業本部、ヘルス&ビューティ事業部、ユニフォームサービス事業部、ドリンクサービス事業部担当 平成21年 4月 当社常務取締役クリーンサービス事業本部、ケアサービス事業本部、法人営業本部、ヘルス&ビューティ事業部、ホームインステッド事業部、ユニフォームサービス事業部、ドリンクサービス事業部、レントオール事業部担当 平成22年 4月 当社常務取締役クリーングループ担当 平成23年 2月 当社常務取締役ヘルス&ビューティ事業部、ホームインステッド事業部、レントオール事業部、全国9地域本部担当 平成23年 4月 当社常務取締役全国9地域本部、フードチェーン事業部担当 平成24年 4月 当社常務取締役社長室、広報部、法務・コンプライアンス部、品質保証・リスク管理部、商品検査センター、フードチェーン開発部担当 平成24年 6月 当社専務取締役社長室、広報部、法務・コンプライアンス部、品質保証・リスク管理部、商品検査センター、フードチェーン開発部担当 現任	(注) 3	6

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常務取締役	人事部、総務部、 経理部、情報シス テム部、生産本部 担当	鶴見 明久	昭和28年9月26日生	平成14年10月 株式会社三井住友銀行京都法人営業第三 部長 平成17年4月 当社入社 業務改革推進部長 平成18年4月 当社執行役員経営企画部長 平成19年4月 当社執行役員経営企画部長兼業務改革推 進部担当 平成19年6月 当社取締役経営企画部長兼業務改革推進 部担当 平成20年4月 当社取締役経営企画部長兼業務改革推進 部、コールセンター担当 平成21年4月 当社取締役人事部、総務部、経理部、業務改 革推進部担当 平成22年4月 当社取締役人事部、総務部、経理部担当 平成23年4月 当社取締役人事部、総務部、経理部、情報シ ステム部担当 平成23年6月 当社常務取締役人事部、総務部、経理部、情 報システム部担当 平成24年6月 当社常務取締役人事部、総務部、経理部、情 報システム部、生産本部担当 現任	(注) 3	6
取締役	ユニフォーム サービス事業部、 ヘルス&ビュー ティ事業部、ホー ムインステッド 事業部、レント オール事業部担 当	長沼 洋一	昭和30年1月16日生	昭和53年4月 当社入社 平成8年3月 当社メリーメイド事業部運営部長 平成11年4月 当社東京東支社長 平成13年12月 当社労働組合(ネットピープル・ダスキ ン)専従 平成14年12月 当社秘書部長 平成16年6月 当社取締役秘書部長 平成17年2月 当社取締役秘書部長兼業務改革推進部担 当 平成17年6月 当社取締役経営企画部長兼業務改革推進 部担当 平成18年4月 当社取締役経営企画部、業務改革推進部担 当 平成19年4月 当社取締役新規事業開発プロジェクト担 当、フードサービスグループ副担当 平成20年4月 当社取締役社長室、広報・広告部、新規事 業開発プロジェクト担当 平成21年4月 当社取締役社長室、広報・広告部、法務・ コンプライアンス部、品質保証・リスク管 理部、新規事業開発プロジェクト担当 平成22年4月 当社取締役ビジネスサービス事業本部長 平成23年2月 当社取締役ビジネスサービス事業本部長 兼ユニフォームサービス事業部担当 平成24年4月 当社取締役ユニフォームサービス事業部、 ヘルス&ビューティ事業部、ホームイン ステッド事業部、レントオール事業部担当 現任	(注) 3	10

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	クリーン・ケア 事業本部長兼開 発研究所担当	岡井 和夫	昭和32年6月29日生	昭和55年4月 当社入社 平成10年1月 楽清服務股?有限公司総経理 平成19年4月 当社執行役員楽清(上海)清潔用具租賃 有限公司董事長総経理兼楽清香港有限公 司董事長総経理 平成20年4月 当社執行役員国際部長兼楽清香港有限公 司董事長総経理 平成20年6月 当社取締役国際部長 平成21年4月 当社取締役経営企画部、コールセンター、 海外事業部担当 平成22年4月 当社取締役経営企画部、海外事業部、新規 事業開発部担当 平成24年4月 当社取締役クリーン・ケア事業本部長兼 開発研究所担当 現任	(注)3	11
取締役	クリーン・ケア 西日本地域担当 (東海・北陸地 域本部、近畿地 域本部、中国・四国 地域本部、九州地 域本部)	武田 浩	昭和33年8月29日生	昭和56年4月 当社入社 平成16年11月 当社クリーンサービス事業本部北陸統括 支部長 平成18年12月 当社クリーンサービス事業本部九州統括 支部長 平成21年4月 当社クリーンサービス事業本部長 平成21年6月 当社取締役クリーンサービス事業本部長 平成22年4月 当社取締役ホームサービス事業本部長 平成23年2月 当社取締役ホームサービス事業本部長兼 ドリンクサービス事業部担当 平成24年4月 当社取締役クリーン・ケア西日本地 域担当(東海・北陸地域本部、近畿地 域本部、中国・四国地域本部、九州地域本 部) 現任	(注)3	3
取締役	クリーン・ケア 東日本地域担当 (北海道地域本 部、東北地域本 部、東京地域本 部、北関東地域本 部、南関東地域本 部)	井原 修	昭和33年10月4日生	昭和56年4月 当社入社 平成17年8月 当社ケアサービス事業本部運営部長 平成20年4月 当社執行役員ケアサービス事業本部長 平成21年4月 当社ケアサービス事業本部長 平成21年6月 当社取締役ケアサービス事業本部長 平成24年4月 当社取締役クリーン・ケア東日本地域担 当(北海道地域本部、東北地域本部、東京 地域本部、北関東地域本部、南関東地域本 部) 現任	(注)3	4

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	ミスタードーナツ事業本部長	楢原 純一	昭和33年2月20日生	昭和57年10月 平成18年4月 平成20年4月 平成21年4月 平成21年6月	当社入社 当社執行役員ミスタードーナツ事業本部 運営部長 当社執行役員ミスタードーナツ事業本部長 当社ミスタードーナツ事業本部長 当社取締役ミスタードーナツ事業本部長 現任	(注)3	4
取締役	経営企画部、経営管理部、海外事業部、新規事業開発部担当	松田 研二	昭和32年4月1日生	昭和55年4月 平成10年11月 平成18年11月 平成23年4月 平成23年6月 平成24年4月 (主要な兼職) 平成24年4月	当社入社 当社ツールグリーン事業部長 当社ヘルス&ビューティ事業部長 当社ヘルス&ビューティ事業部兼ホーム インステッド事業部、レントオール事業部 担当 当社取締役ヘルス&ビューティ事業部兼 ホームインステッド事業部、レントオール 事業部担当 当社取締役経営企画部、経営管理部、海外 事業部、新規事業開発部担当 現任 楽清香港有限公司董事長 現任	(注)3	18
取締役		打矢富貴子	昭和29年1月27日生	平成5年5月 平成11年5月 平成12年5月 平成13年5月 同 年同月 平成22年6月	大阪いずみ市民生活協同組合理事 大阪いずみ市民生活協同組合常任理事 大阪府生活協同組合連合会理事 大阪いずみ市民生活協同組合常任理事退 任 大阪府生活協同組合連合会理事退任 当社取締役 現任	(注)3	1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		岡本 一昭	昭和29年4月5日生	昭和52年4月 当社入社 平成14年4月 当社総務本部法務部長 平成17年4月 当社法務・コンプライアンス部長 平成19年4月 当社総務部長 平成20年6月 当社常勤監査役 現任	(注)5	6
常勤監査役		重吉 康人	昭和32年11月27日生	昭和53年4月 当社入社 平成15年12月 当社監査部長 平成19年11月 当社経理部長 平成24年4月 当社社長室参事 平成24年6月 当社常勤監査役 現任	(注)5	3
監査役		千森 秀郎	昭和29年5月24日生	昭和55年10月 司法試験合格 昭和58年3月 司法修習終了 昭和58年4月 弁護士登録(大阪弁護士会) 平成18年6月 当社監査役<現任> (主要な兼職) 平成22年5月 弁護士法人三宅法律事務所代表社員弁護士<現任>	(注)4	3
監査役		青野奈々子	昭和37年1月15日生	平成7年11月 中央監査法人入所 平成14年7月 株式会社ビジコム入社 平成17年3月 同社取締役 平成20年6月 当社監査役 現任 (主要な兼職) 平成22年5月 株式会社G E N代表取締役社長 現任	(注)5	0
監査役		松本 章	昭和46年4月21日生	平成11年10月 センチュリー監査法人入所 平成15年4月 株式会社M I T Corporate Advisory Services代表取締役社長 現任 平成20年6月 当社監査役 現任 平成23年3月 株式会社O P A L代表取締役会長(現任) (主要な兼職) 平成15年4月 株式会社M I T Corporate Advisory Services代表取締役社長 現任 平成23年3月 株式会社O P A L代表取締役会長 現任	(注)5	1
計						96

(注)1. 取締役 打矢富貴子は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

2. 監査役 千森秀郎、青野奈々子及び松本 章の3名は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

3. 平成24年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から1年間

4. 平成22年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

5. 平成24年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンス体制の概要】

#### 概要

当社は、消費者・お客様、社会・地域、株主、投資家、取引先、従業員に支えられた存在であるという基本認識に立って、効率的で、公正性、透明性が高い経営を実現し、企業価値の継続的発展を目指すために最適で実効性が高いコーポレート・ガバナンス体制を維持しております。

#### a. 取締役会

取締役会については毎月2回開催し、当社グループの経営上の重要な事項についての意思決定を行うと共に、業務執行の監督を行っております。

取締役は、経営環境の変化に迅速且つ的確に対応した経営判断を行うことを重視し、会社の業務に精通した社内取締役9名及び独立役員の社外取締役1名の構成となっております。

#### b. 監査役会

監査役は、常勤監査役2名及び独立役員の監査役を含む非常勤の社外監査役3名の体制で、取締役会をはじめとする重要な会議に出席して経営の監視を行っており、毎月1回定期的に監査役会を行っております。

#### c. 内部監査

社長直轄の業務監査部門として監査部を設け、監査計画に基づく内部監査を実施しております。

#### d. 会計監査

当社は法令に基づき、会計監査人である新日本有限責任監査法人の会計監査を受けております。同監査法人は、業務執行社員の交代制度を導入しており、特定の業務執行社員が当社の会計監査に法令で定められる一定期間を超えて関与することはありません。

#### e. 情報開示

種々ステークホルダーへの説明責任を果たし経営の透明性を高めると共に、当社への理解を促進して適正な評価を得るために、公正且つ適時適切な情報開示の充実に努めております。また、株主等の意見を経営に活かしていくことは、事業価値の継続的発展に不可欠であり、積極的なIR活動を通じて得る意見・要望を、経営陣へフィードバックし適切に経営に反映しております。

#### 当該体制を採用する理由

業務執行者を兼務する取締役の相互監視及び独立役員の監査役を含む専門性が高い監査役による経営の監視体制は、お客様視点に立った経営を推進し、健全で効率的な業務執行を行う体制として最も実効性があり、経営環境の変化に対する迅速且つ的確な対応に最も適合しており、現在のこの体制は有効に機能していると判断しております。

#### 業務執行

#### a. 取締役会による経営の意思決定

取締役会については毎月2回開催し、当社グループの経営に重要な影響を与える案件について審議、決裁を行っております。

なお、取締役10名のうち1名の社外取締役を選任しており、当社と社外取締役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令で定める額であります。

また、原則として事業及びスタッフの部門最高責任者を取締役が担当する担当役員制として業務執行についての責任を明確にする体制にし、経営環境の変化等に迅速に対応すると共に、経営陣の責任をより明確化するために取締役任期は1年としております。

なお、当社の取締役は15名以内とする旨定款に定めております。

#### b. 社外取締役の機能及び役割

社外取締役は、会社と利害関係がなく独立性が高い、消費者問題に精通した社外取締役1名を選任しております。取締役会のみならず、各種の会議や商品・サービスの開発プロセスにおいて、消費者視点からの客観的、中立的なチェック機能を担っております。

#### c. 各種委員会

取締役会若しくは代表取締役の諮問機関として、業務執行に係る3つの委員会を設置しております。

##### (a) リスクマネジメント委員会

当企業集団におけるあらゆるリスクの発生を事前に把握し対応策を講じると共に、万一リスクが発生した場合に蒙る被害を回避又は最小化することを目的として「リスクマネジメント基本規程」を定めて運用しており、本社、事業(本)部、関係会社各々にリスクマネジメントを実施する責任者を設置しております。また、前述の責任者と共に品質保証・リスク管理部の担当取締役を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を社長の諮問機関として常設しており、年2回定期的に委員会を開催しております。なお、企業集団に及ぼす影響が高いリスクが発生した場合は対策本部を設置することとしています。

##### (b) 品質・環境委員会

お客様・社会に対して、安全で安心、環境保全に配慮した商品・サービス、そして楽しさをお届けするために、「品質管理規程」「品質・環境委員会規程」「商品・サービス開発規程」「環境管理規程」を設け、必要な政策・方針を審議することを目的に、社長の諮問機関として「品質・環境委員会」を設置しております。委員長は、「品質・環境委員会規程」に基づき社長が任命し、事業部門の担当取締役を主たる委員として、社外取締役を含む委員で構成しており、当企業集団全体の方向性を議論・検討を行っております。また、同委員会の有効性、実効性を高める目的で「品質連絡会」「環境保全連絡会」の2つの下部組織を設け、現場に即した議論ができる体制としております。また、クレームを含む「お客様の声」を、その後の商品開発・サービスの提供に活かすことも当社としての重要な課題と考え、そのための会議（社内呼称「VOICE会議」）を実施し、「品質・環境委員会」や事業部が開催する「商品開発会議」等にも「お客様の声」を反映しております。

(c) コンプライアンス委員会

当企業集団のコンプライアンス体制の確立、浸透、定着のため、「コンプライアンス委員会規程」を定め、取締役会の諮問機関として「コンプライアンス委員会」を設置しております。法務・コンプライアンス部担当取締役を委員長として、取締役会が選任した弁護士、社外取締役、労働組合委員長を含む委員で構成し、定期的な会合の中で諸問題に対するコンプライアンス側面から見た改善提言を行うと共に、制度、規程改定等に反映しております。

d. 経営会議

社外を含む取締役全員、常勤監査役、事業（本）部長、地域本部長、本社部門（本）部長をメンバーとする経営会議を毎月1回開催しており、各部門の予算執行状況及びその乖離状況を的確に把握し、対応策等の協議、議論を行うと共に、情報の共有化を図っております。

e. ハンドル会議

経営上の重要な事項について方向性を討議する他、情報を共有する場として、経営管理部を事務局とし、役付役員をメンバーとするハンドル会議を毎月2回開催しております。

f. 法務面

法務面につきましては、弁護士法人淀屋橋・山上合同と顧問契約を締結し、必要に応じ法律全般についての助言と指導を受けております。

監査・監督

a. 監査役制度に基づく経営の監視

- ・ 監査役は取締役会に毎回出席し意見を述べると共に、経営の監視を行っております。また監査役は、取締役会の他、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、予算会議、経営会議等、重要な会議又は委員会に出席すると共に、主要な稟議その他の業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて取締役又は従業員にその説明を求めることとしております。
- ・ 監査役会は、監査方針の決定、監査状況の確認のため、毎月1回定期的に開催しております。

b. 監査役機能強化に係る取り組み状況

- ・ 常勤監査役は、会社業務に精通し、財務・会計及び経営管理に相当程度の知見を有する者が就き、また社外監査役は、法務面、財務・会計面の専門的見地からのチェックが働くよう、専門家（公認会計士、弁護士）を選任しております。
- ・ 監査役5名のうち3名の社外監査役を選任しており、当社と社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令で定める額であります。
- ・ 監査役は、監査部その他の従業員に対し、業務補助を行うよう命令できるものとしており、また、職務の遂行上必要な場合は、従業員を取締役から独立させて業務を行うよう指示できるものとしております。

c. 監査部の設置

社長直轄の業務監査部門として監査部を設け、監査計画に基づく内部監査を実施しております。監査部は、独立した立場で、全部門を対象にして客観的な監査を実施し、定期的に社長に報告すると共に、対象部門に対して業務改善を目的とした勧告を行っております。

d. 会計監査人

当社は法令に基づき、会計監査人である新日本有限責任監査法人の会計監査を受けております。同監査法人は、業務執行社員の交代制度を導入しており、特定の業務執行社員が当社の会計監査に法令で定められる一定期間を超えて関与することはありません。

e. 相互連携

監査役、会計監査人、監査部、法務・コンプライアンス部、経理部は、緊密な連携を保ち、重ねて調査する必要が認められる案件、迅速に対処すべき案件等を見極め、合理的な監査に努めることとしております。

また、代表取締役社長は、監査役会と定期的に会合を持ち、対処すべき課題や監査上の重要課題について意見交換しております。

関係会社におけるコーポレート・ガバナンスに関する施策の状況

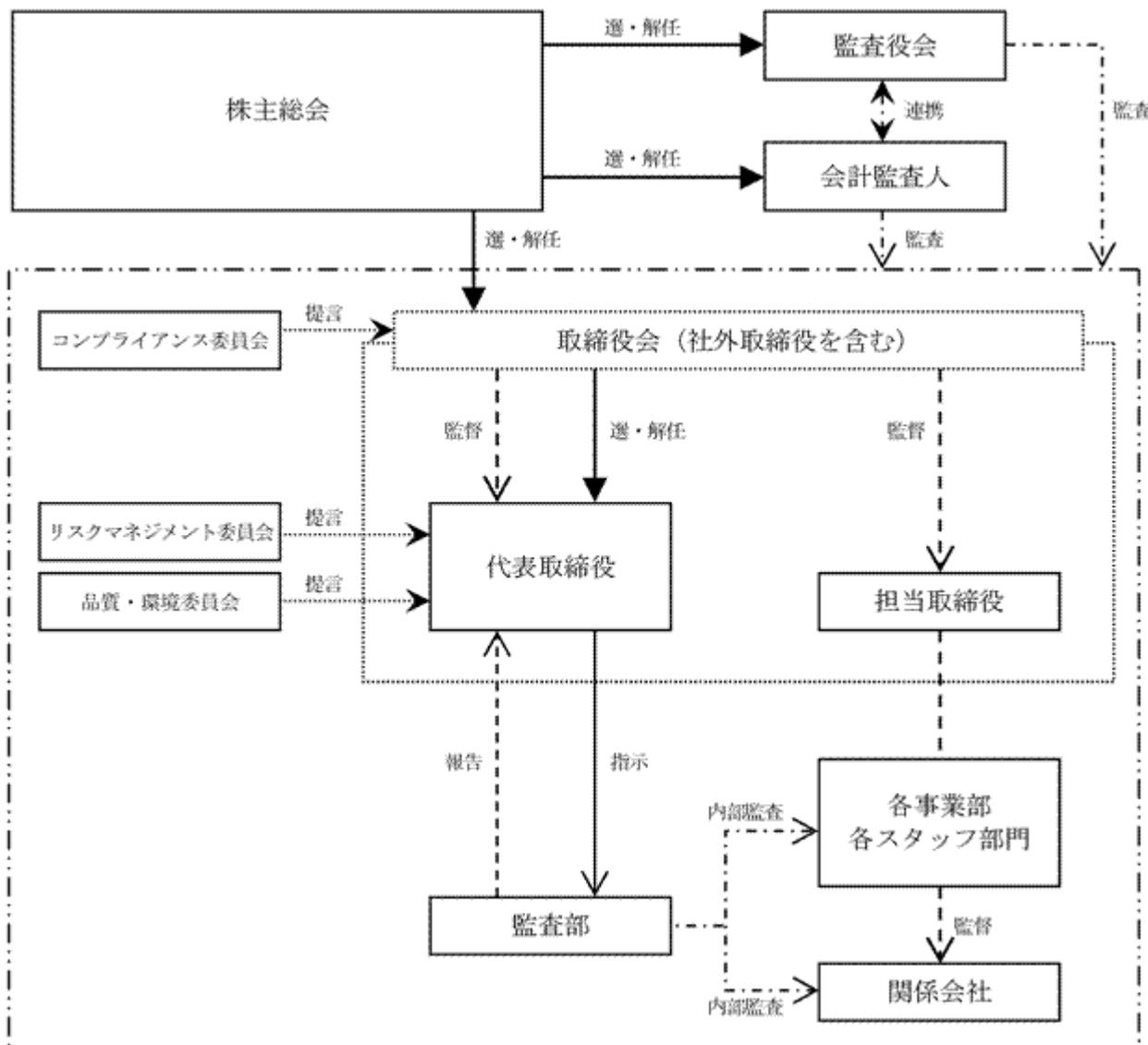
関係会社につきましては、その自主性を尊重しつつ、当社の主管部署が「関係会社管理規程」並びに「稟議規程」に基づき指導、助言を行うと共に統括管理しております。

a. 取締役会の開催

取締役会は、各社の「取締役会規程」に基づいて定期的開催し、経営に重要な影響を与える案件について審議、決裁を行っております。

b. 当社の「稟議規程」と整合性を持った各々の関係会社毎の「稟議規程」を制定し、これを遵守しております。

c. 監査役及び当社監査部が業務監査を実施し、規程、マニュアル等の運用状況を確認、指導を行っております。会社の機関及び内部統制関係図



内部監査及び監査役監査、会計監査の状況

監査につきましては、前述のとおり、合理的な監査に努めることを目的とし、監査役、会計監査人、監査部、法務・コンプライアンス部、経理部が緊密な連携を図っております。

a. 内部監査の担当部門及び実施手続き

当社社長直轄部門として監査部（担当人員10名）を設置しており、同部が当社グループの内部監査を実施しております。

監査手続きは、実地監査を原則とし、チェックリスト等を使用して帳票、証憑、契約書、資産現物等を確認することにより各種規程の遵守状況を監査しております。監査終了後、監査報告書に監査結果をまとめ、速やかに被監査部門に対して報告を行い、改善が必要な事項につきましては被監査部門から回答書を提出させていただきます。

b. 監査役職の職務及び監査役監査の実施手続き

(a) 監査役の職務

区分	職務分担
全監査役共通	1. 取締役会への出席
	2. 経営に係る重要文書の閲覧
	3. 会計監査人監査の妥当性判断
監査役（常勤）	1. 取締役からの報告、事業の進捗状況等の聴取
	2. 経営会議への出席
	3. コンプライアンス委員会への出席
	4. 本社内各部及び各事業部の調査
	5. 支店等主要事業所の調査
	6. 主要子会社の調査

(b) 監査役監査の手続き

常勤監査役は、事業年度末までに当該事業年度の監査実績、繰越し案件等を考慮して翌事業年度の監査基本計画の策定を行います。翌事業年度の冒頭には監査役会を招集し、監査基本方針を作成して各監査役の分担を決定しております。

原則として、監査役会承認の下に確定した監査計画に沿って、監査実施の数日前までに被監査部署等に対して文書又は電子メールで予告して監査を実施します。

監査役はそれぞれの職務分担に応じて実施した監査につきまして、定例監査役会において、その内容、結果を報告し、他の監査役の意見を求め協議を行うこととしており、共同で実施した監査につきましては、意見を交換し合い共有化を図っております。

取締役会に対し早急に勧告或いは意見具申が必要と認められる事実につきましては、遅滞なく勧告等を行い、是正、改善を求めています。

c. 会計監査の状況

当社は、法令に基づく会計監査を受けており、執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数は次のとおりであります。

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名	継続監査年数
指定有限責任社員 業務執行社員	石橋 正紀	新日本有限責任監査法人	
	西原 健二		
	伊藤 嘉章		

(注) 1. 継続監査年数につきましては、7年以内である場合には記載を省略しております。

2. 同監査法人は、業務執行社員の交代制度を導入しており、特定の業務執行社員が当社の会計監査に法令で定められる一定期間を超えて関与することはありません。

監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査に係る補助者は、公認会計士11名、その他12名であります。

d. 社外取締役、社外監査役との利害関係

社外取締役打矢富貴子は、当社から役員報酬以外に金銭その他の財産を得ておらず、当社と利害関係を有するものではないことから、東京証券取引所及び大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届出ております。

社外監査役千森秀郎は、弁護士法人三宅法律事務所代表を務める弁護士であります。当社と同法人の間には取引関係はなく、また、当社から役員報酬以外に金銭その他の財産を得ていないため、一般株主と利益相反の生じる恐れはありません。また、当社グループ以外に、オムロン株式会社及び内藤証券株式会社において監査役であります。両社とも当社との間には取引関係はなく、利害関係を有するものでないことから、東京証券取引所及び大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届出ております。

社外監査役青野奈々子は、株式会社G E Nの代表取締役社長であります。当社と同社の間には取引関係はなく、利害関係を有するものではありません。

社外監査役松本章は、株式会社M I T Corporate Advisory Services及び株式会社O P A Lの代表取締役であり、株式会社フレームワークス及びシンガポール株式会社の取締役であります。当社は同社のいずれの間にも取引関係がなく、利害関係を有するものではありません。

社外取締役及び社外監査役と当社との資本的関係につきましては、「5. 役員の状況」のそれぞれの所有株式数に記載のとおりであります。

当社は、経営の監視・監督機能を強化するため、社外取締役及び社外監査役を選任しております。社外取締役は、会社の最高権限者である代表取締役などと直接の利害関係のない有識者から選任し、当社の業務執行に携わらない客観的な立場からの提言を受けることで、取締役会の監督機能強化を図っております。社外監査役は、監査体制の独立性を高め、客観的な立場から監査意見を表明することで、当社の企業統治の有効性に大きく寄与するものと考えております。

当社において、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性について特段の定めはありませんが、専門的な知見に基づく客観的かつ適切な監督又は監査といった機能及び役割が期待され、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを基本的な考え方として、選任しております。

リスク管理体制の整備状況

当社は、リスク管理体制を明確にすると共に、当企業集団に生じる恐れのあるリスクの発生を事前に把握し、その対応策を講じておくことで、万一リスクが発生した場合に蒙る被害を回避若しくは最小化することを目的として「リスクマネジメント基本規程」を策定しております。また、同規程の遵守を指導し、全社のリスクマネジメントを統括すると共に、リスクマネジメントシステムを構築運用する部署として「品質保証・リスク管理部」を設置しております。

a. リスクマネジメント委員会

「リスクマネジメント基本規程」に基づき、社長の諮問機関として、品質保証・リスク管理部の担当取締役を委員長とし、本社・事業（本）部・関係会社のリスクマネジメントを実施する責任者で構成する「リスクマネジメント委員会」を設置しております。リスクマネジメント委員長は、同規程により当社のリスクに関する体制の確認、当社の対応すべきリスクの確認と指示を行う権限を有し、各部門の取締役は主管する部門のリスクマネジメントを統括することを規定しております。

b. リスクマネジメント委員・リスクマネジメント推進責任者の設置

リスクマネジメント委員・リスクマネジメント推進責任者は、担当部門のリスクに関する体制の構築やリスクの対策手段と実施状況を確認する等、主体的に部門のリスクに関する未然防止活動を実施します。また、リスクマネジメント委員は、危機発生時や自然災害による被害発生時は対策メンバーとして対応を実施します。

c. 危機情報の集中

危機・自然災害による被害発生時、又は震度5強以上の地震発生時等、リスクマネジメント委員は自ら情報収集を行い、品質保証・リスク管理部に報告することとしております。また、震度5強未満の地震でも被害が発生していると思われる場合は、直ちに情報収集を実施します。

d. 危機対策本部・災害対策本部の設置

企業集団に及ぼす影響が高いリスクが発生した場合、社長は、対策本部設置の有無を判断し、対策本部長を指名します。対策本部は人命尊重を最優先として被害の拡大の防止・早期復旧を目的に必要な事項を検討、決定します。本社の対策本部は対策の立案・対応を実施し、現地の対策本部は本社と連携して被害拡大防止等対応を実施します。

e. 監査役への報告

リスクマネジメント委員会及び危機対策本部で議案となった事項並びに決定した事項につきましては、適時監査役へ報告を行うこととしており、また監査役は必要に応じてリスクマネジメント委員会又は危機対策本部、災害対策本部に出席することができることとしております。

役員報酬の内容

a. 取締役及び監査役の報酬等の決定に関する方針

取締役及び監査役の報酬等は、基本報酬と賞与の2種類で構成しております。

(a) 取締役の報酬等について

取締役全員の報酬総額は、株主総会で決議された報酬枠の範囲内で決定され、各取締役の報酬額は、取締役会の授権を受けた代表取締役が当社の定める一定の基準に基づき決定しております。なお、この基準は、外部専門機関が調査した他社水準を考慮して決定しております。

基本報酬につきましては、各取締役が担当する役割の大きさとその地位に基づき、その基本となる額を設定していますが、貢献度や戦略企画推進力等により、一定の範囲内で変動するものとしております。

賞与につきましては、連結の当期純利益の実績を基に、全取締役分の原資の上限を決定し、各取締役の目標達成度や戦略企画推進力等に応じて各人別の配分額を決定しております。

なお、社外取締役ににつきましては、当該社外取締役の経歴等を勘案した上で、基本報酬及び賞与のいずれについても一定の金額に設定しております。

(b) 監査役の報酬等について

監査役全員の報酬総額は、株主総会で決議された報酬枠の範囲内で決定され、各監査役の報酬額は、監査役の協議により決定しております。

b. 役員報酬等

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)		対象となる役員 の員数(人)
		基本報酬	賞与	
取締役 (社外取締役を除く。)	348,550	307,050	41,500	13
監査役 (社外監査役を除く。)	56,400	48,600	7,800	2
社外役員	38,650	31,950	6,700	4

株式保有の状況

a. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数

37 銘柄

貸借対照表計上額の合計額 11,013 百万円

## b. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)モスフードサービス	1,315,600	2,006	資本業務提携先
日本製粉(株)	5,020,000	1,912	原材料の安定仕入先
ロイヤルホールディングス(株)	1,400,000	1,146	原材料の安定仕入先及び大口顧客
大和ハウス工業(株)	937,000	957	グループ間での総合取引関係強化
日本水産(株)	3,230,000	746	原材料の安定仕入先
江崎グリコ(株)	730,000	705	グループ間での総合取引関係強化
住友不動産(株)	375,000	624	グループ間での総合取引関係強化
(株)池田泉州ホールディングス	5,143,000	581	金融情報等の受領及び金融取引先
(株)カネカ	760,000	440	原材料の安定仕入先
ソントン食品工業(株)	400,000	267	原材料の安定仕入先
(株)千趣会	530,000	262	グループ間での総合取引関係強化
ニッタ(株)	130,000	194	大口顧客
タイガースポリマー(株)	300,000	112	原材料の安定仕入先
凸版印刷(株)	147,000	96	販売促進品・ツールの安定仕入先
(株)ニチイ学館	120,000	78	資本業務提携先
(株)ヤギ	72,000	72	原材料の安定仕入先
(株)フジ	24,100	39	大口顧客
(株)ゼンショー	39,520	32	大口加盟店
住友信託銀行(株)	65,560	19	金融情報等の受領及び金融取引先
(株)三井住友フィナンシャルグループ	6,300	16	金融情報等の受領及び金融取引先
イオン(株)	10,409	10	大口顧客
イオンディライト(株)	6,901	9	大口顧客
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	22,100	8	金融情報等の受領及び金融取引先
(株)みずほフィナンシャルグループ	59,000	8	金融情報等の受領及び金融取引先
日本電信電話(株)	2,000	7	情報機器設備管理・運用業務委託先
(株)フジタコーポレーション	150	5	大口加盟店
(株)木曽路	3,000	5	大口顧客
みずほ証券(株)	22,000	4	金融情報等の受領及び金融取引先
イオンモール(株)	894	1	出店施設先
(株)ナック	1,000	1	大口加盟店

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)モスフードサービス	1,315,600	2,065	資本業務提携先
日本製粉(株)	5,020,000	1,907	原材料の安定仕入先
ロイヤルホールディングス(株)	1,400,000	1,310	原材料の安定仕入先及び大口顧客
大和ハウス工業(株)	937,000	1,025	グループ間での総合取引関係強化
日本水産(株)	3,230,000	910	原材料の安定仕入先
住友不動産(株)	375,000	748	グループ間での総合取引関係強化
江崎グリコ(株)	730,000	724	グループ間での総合取引関係強化
(株)池田泉州ホールディングス	4,243,000	487	金融情報等の受領及び金融取引先
(株)カネカ	760,000	379	原材料の安定仕入先
(株)千趣会	530,000	310	グループ間での総合取引関係強化
ソントン食品工業(株)	400,000	286	原材料の安定仕入先
ニッタ(株)	130,000	197	大口顧客
(株)ニチイ学館	120,000	132	資本業務提携先
タイガースポリマー(株)	300,000	106	原材料の安定仕入先
凸版印刷(株)	147,000	94	販売促進品・ツールの安定仕入先
(株)ヤギ	72,000	92	原材料の安定仕入先
(株)フジ	24,100	44	大口顧客
(株)ゼンショーホールディングス	39,520	40	大口加盟店
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	65,560	17	金融情報等の受領及び金融取引先
(株)三井住友フィナンシャルグループ	6,300	17	金融情報等の受領及び金融取引先
イオンディライト(株)	9,320	16	大口顧客
イオン(株)(イオン第三共栄会)	12,987	14	大口顧客
(株)みずほフィナンシャルグループ	91,560	12	金融情報等の受領及び金融取引先
(株)フジタコーポレーション	150	10	大口加盟店
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	22,100	9	金融情報等の受領及び金融取引先
日本電信電話(株)	2,000	7	情報機器設備管理・運用業務委託先
(株)木曽路	3,000	4	大口顧客
イオンモール(株)	1,559	2	出店施設先
(株)ナック	1,000	1	大口加盟店

## 内部情報の管理及び適時開示体制の整備

### a. 内部情報の管理体制

当社は、「インサイダー情報管理規程」及び「インサイダー情報取扱細則」を制定しており、経理部を情報取扱責任部署、情報取扱責任部署担当取締役を情報取扱責任者と定めて、会社全般に亘る重要な内部情報に関する事項の統括管理を行っております。

また、当社の情報資産が、常に盗聴、侵入、破壊、改竄等の脅威に晒されていることを認識し、ネットワークを通じて正確な情報及び安定的な情報サービスの提供を確保するため、「情報システムセキュリティ規程」をはじめとした情報関連諸規程を制定し、運用しております。また、本社に「情報システム部」を設置し、当社のネットワーク及び取扱情報資産の適切な保護に努めております。加えて、ソフトウェアの適切な利用・管理、著作権の保護等を目的とした「ソフトウェア管理規程」を制定し、役職員の研修等の機会におきまして、その内容の周知徹底を図ることにより他者による権利侵害を未然に防止すると共に、当社の情報セキュリティ体制をより強固なものに構築すべく取り組んでおります。

また、個人情報の適切な利用、保護に関しては、当社の社会的責務であると認識しており、個人情報を厳正に取り扱うべく、平成16年7月には「個人情報保護規程」をはじめとする諸規程を制定し、遵守の徹底を図ると共に、「ダスキン個人情報保護方針」を策定し、役職員に周知すると同時に「経済産業省ガイドライン」に従い、当社のホームページ上にもこれを掲載し、社会一般に対する閲覧にも供しております。

### b. 適時開示体制

当社グループは、投資者への適時適切な会社情報開示が健全な証券市場の根幹をなすものであることを十分に認識すると共に、常に投資者の視点に立った迅速、正確且つ公平な会社情報の開示を適切に行えるよう社内体制の充実に努める等、投資者への会社情報の適時適切な提供について真摯な姿勢で臨むことを基本姿勢としております。社内外で起こり得る当社の業務、運営、業績等に関する情報は、情報取扱責任部署で一元的に管理した上で、関係諸法令、適時開示規則、社内諸規程に則り速やかな開示を行う他、それら法令等において開示義務が定められていない情報についても、その重要性を総合的に検討の上判断して、積極的に開示する方針としております。

当社では、会社情報の適時開示が迅速、正確に行えるよう「インサイダー情報管理規程」並びに「インサイダー情報取扱細則」を定めており、業務、運営、業績等に関する情報の一切が情報取扱責任部署に集約され一元管理される体制を構築しております。この規程並びに細則は、社内ネットワーク上に掲示し、役員及び従業員が常時閲覧可能な状態としております。

### c. 役職員のインサイダー取引防止策

当社は、証券市場の公正性と健全性を確保するため、金融商品取引法によって規制される様々な公開会社に対する規範を尊重し、「インサイダー情報管理規程」に役職員の自社株式等の売買に関する規程を付加し、当社及び関係会社の役職員が当社株式の売買を行う場合には、「株券売買申請書」の提出を義務付けており、売買を行おうとする役職員がインサイダー情報を保持していないことを確認の上、売買することとしております。

## IRに関する活動状況

株主、投資家に対するIR活動を通じて、投資判断に必要な経営情報を正確且つ積極的に開示すると共に、株主、投資家と積極的に対話できる環境を作り、資本市場における信頼の確保に努めております。

### a. 定期的説明会の実施

原則として半期に1回の割合で機関投資家、アナリスト向けの説明会を実施することとしており、説明会においては、社長自らが決算情報、中期経営計画の概要・進捗状況等について、図表等を用いてわかりやすく説明することとしております。

また、今後は個人投資家向けの説明会等の積極的な実施も検討して参ります。

### b. その他

情報伝達の迅速性、公平性を考慮し、当社のホームページを利用して、当社を取り巻く環境、安全・安心、コンプライアンス等への取組み状況やニュース、トピックス等積極的に開示しております。

反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

当社グループは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力・団体に対して毅然とした態度で臨むこととしており、これらの勢力・団体からの不当な圧力や金銭の要求等については断固拒否し、取引関係その他一切の関係を持たない社内体制を整備致します。

株式会社の支配に関する基本方針

買収防衛策の導入に関しましては、重要な経営課題の一つとして、法制度の枠組みや関係省庁及び証券取引所の解釈、見解、裁判例、世間の動向等を注視しながら、必要に応じて検討して参ります。

取締役選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行うものとし、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

取締役会で決議できることとした株主総会決議事項

a．自己株式の取得

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって、市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

b．中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の運営を円滑に行うため、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって決議を行う旨を定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	91	15	82	11
連結子会社	1	0	-	-
計	92	16	82	11

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社は、会計監査人に対して公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務である国際財務報告基準への移行にかかる業務委託契約及び合意された手続きによる調査業務についての対価を支払っています。

(当連結会計年度)

当社は、会計監査人に対して公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務である国際財務報告基準への移行にかかる業務委託契約及び合意された手続きによる調査業務についての対価を支払っています。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、多岐にわたる各事業と、連結子会社を含め、監査計画について監査法人と取締役が協議した上で、監査役の同意を得て決定することを基本としております。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1)当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2)当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の連結財務諸表及び第50期事業年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同法人や新日本有限責任監査法人、その他外部団体、専門家の行う開示や会計基準の改正に関する研修会に必要に応じて参加しております。

1【連結財務諸表等】  
 (1)【連結財務諸表】  
 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,733	15,600
受取手形及び売掛金	12,353 <sup>1</sup>	10,891 <sup>1</sup>
リース投資資産	1,864	1,850
有価証券	13,017	18,153
商品及び製品	6,297	6,345
仕掛品	155	195
原材料及び貯蔵品	1,956	1,456
繰延税金資産	2,982	2,306
その他	3,065	2,675
貸倒引当金	63	72
流動資産合計	60,364	59,401
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	41,099	41,283
減価償却累計額	22,376	23,361
建物及び構築物(純額)	18,722	17,922
機械装置及び運搬具	21,680	21,742
減価償却累計額	15,130	15,507
機械装置及び運搬具(純額)	6,550	6,235
土地	23,818	23,818
建設仮勘定	142	268
その他	12,207	11,881
減価償却累計額	8,051	8,317
その他(純額)	4,155	3,563
有形固定資産合計	53,389	51,809
無形固定資産		
のれん	294	200
その他	6,485	8,926
無形固定資産合計	6,779	9,126
投資その他の資産		
投資有価証券	59,955 <sup>2, 3</sup>	60,816 <sup>2, 3</sup>
長期貸付金	115	45
繰延税金資産	8,417	6,998
差入保証金	8,735	7,876
その他	1,334	1,454
貸倒引当金	214	212
投資その他の資産合計	78,343	76,979
固定資産合計	138,512	137,915
資産合計	198,876	197,316

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	7,322	6,616
1年内返済予定の長期借入金	116	94
未払法人税等	2,651	1,902
賞与引当金	3,542	3,422
ポイント引当金	506	449
災害損失引当金	671	-
資産除去債務	254	253
未払金	6,962	6,669
レンタル品預り保証金	10,792	10,634
その他	4,615	4,281
流動負債合計	37,436	34,323
固定負債		
長期借入金	245	151
退職給付引当金	11,112	11,965
債務保証損失引当金	117	60
資産除去債務	398	355
長期預り保証金	833	791
長期未払金	140	62
負ののれん	17	-
その他	8	2
固定負債合計	12,874	13,388
負債合計	50,311	47,711
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	13,076	11,337
利益剰余金	129,619	131,591
自己株式	3,301	3,176
株主資本合計	150,747	151,104
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,528	1,793
繰延ヘッジ損益	1	3
為替換算調整勘定	477	533
その他の包括利益累計額合計	3,007	2,323
少数株主持分	825	823
純資産合計	148,565	149,604
負債純資産合計	198,876	197,316

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	177,320	171,118
売上原価	1, 3 98,374	1, 3 96,162
売上総利益	78,946	74,956
販売費及び一般管理費	1, 2, 3 68,008	1, 2, 3 65,114
営業利益	10,937	9,841
営業外収益		
受取利息	851	902
受取配当金	247	240
設備賃貸料	118	129
受取手数料	275	279
負ののれん償却額	4	17
持分法による投資利益	2	-
営業権譲渡益	27	76
雑収入	529	553
営業外収益合計	2,057	2,198
営業外費用		
支払利息	61	6
持分法による投資損失	-	10
為替差損	38	90
賃貸借契約解約損	74	103
雑損失	206	219
営業外費用合計	381	430
経常利益	12,613	11,609
特別利益		
固定資産売却益	4 6	4 1
投資有価証券売却益	47	132
負ののれん発生益	7	0
貸倒引当金戻入額	33	24
債務保証損失引当金戻入額	49	-
その他	5 27	5 9
特別利益合計	172	168
特別損失		
固定資産売却損	6 33	6 45
固定資産廃棄損	7 353	7 298
減損損失	8 308	8 268
投資有価証券売却損	75	-
投資有価証券評価損	883	643
災害による損失	9 1,093	9 284
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	491	-
サブライセンス契約の変更に伴う旧契約の 功労評価金	366	-
その他	164	36
特別損失合計	3,770	1,576

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
税金等調整前当期純利益	9,014	10,200
法人税、住民税及び事業税	4,594	4,230
法人税等調整額	876	1,319
法人税等合計	3,718	5,549
少数株主損益調整前当期純利益	5,295	4,651
少数株主利益	46	67
当期純利益	5,248	4,583

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	5,295	4,651
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	793	732
繰延ヘッジ損益	1	5
為替換算調整勘定	76	34
持分法適用会社に対する持分相当額	39	33
その他の包括利益合計	911	669
包括利益	4,384	5,320
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	4,368	5,267
少数株主に係る包括利益	16	53

## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	11,352	11,352
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	11,352	11,352
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	13,076	13,076
当期変動額		
自己株式の消却	-	1,738
当期変動額合計	-	1,738
当期末残高	13,076	11,337
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	127,020	129,619
当期変動額		
剰余金の配当	2,649	2,612
当期純利益	5,248	4,583
当期変動額合計	2,599	1,971
当期末残高	129,619	131,591
<b>自己株式</b>		
当期首残高	1,832	3,301
当期変動額		
自己株式の取得	1,469	1,614
自己株式の消却	-	1,738
当期変動額合計	1,469	124
当期末残高	3,301	3,176
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	149,617	150,747
当期変動額		
剰余金の配当	2,649	2,612
当期純利益	5,248	4,583
自己株式の取得	1,469	1,614
自己株式の消却	-	-
当期変動額合計	1,130	356
当期末残高	150,747	151,104

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	1,730	2,528
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	797	734
当期変動額合計	797	734
当期末残高	2,528	1,793
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
当期首残高	-	1
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1	5
当期変動額合計	1	5
当期末残高	1	3
<b>為替換算調整勘定</b>		
当期首残高	396	477
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	81	56
当期変動額合計	81	56
当期末残高	477	533
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
当期首残高	2,126	3,007
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	880	683
当期変動額合計	880	683
当期末残高	3,007	2,323
<b>少数株主持分</b>		
当期首残高	817	825
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	7	1
当期変動額合計	7	1
当期末残高	825	823
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	148,308	148,565
当期変動額		
剰余金の配当	2,649	2,612
当期純利益	5,248	4,583
自己株式の取得	1,469	1,614
自己株式の消却	-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	873	682
当期変動額合計	256	1,039
当期末残高	148,565	149,604

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	9,014	10,200
減価償却費	6,172	6,242
のれん償却額	142	119
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	491	-
貸倒引当金の増減額（は減少）	36	15
貸倒損失	4	2
受取利息及び受取配当金	1,098	1,142
支払利息	61	6
災害損失	396	284
為替差損益（は益）	5	0
持分法による投資損益（は益）	2	10
有形固定資産売却損益（は益）	27	43
有形固定資産除却損	290	256
投資有価証券売却損益（は益）	27	132
投資有価証券評価損益（は益）	883	643
負ののれん発生益	7	0
営業権譲渡損益（は益）	27	76
減損損失	308	268
売上債権の増減額（は増加）	270	1,436
たな卸資産の増減額（は増加）	546	412
仕入債務の増減額（は減少）	287	767
賞与引当金の増減額（は減少）	597	120
ポイント引当金の増減額（は減少）	6	57
災害損失引当金の増減額（は減少）	671	-
退職給付引当金の増減額（は減少）	1,259	852
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	15	-
債務保証損失引当金の増減額（は減少）	49	57
未払消費税等の増減額（は減少）	475	297
リース投資資産の増減額（は増加）	1	13
その他の資産の増減額（は増加）	1,049	1,330
その他の負債の増減額（は減少）	63	749
小計	17,467	18,738
利息及び配当金の受取額	1,186	1,255
利息の支払額	71	6
法人税等の支払額	4,168	4,973
災害損失の支払額	381	955
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,032	14,057

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額（ は増加）	1,309	87
有価証券の取得による支出	7,046	5,137
有価証券の売却及び償還による収入	7,999	6,999
有形固定資産の取得による支出	4,377	3,271
有形固定資産の売却による収入	56	173
投資有価証券の取得による支出	14,181	6,008
投資有価証券の売却及び償還による収入	6,601	3,105
関係会社株式の取得による支出	-	144
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	2 1,284	-
貸付けによる支出	6	449
貸付金の回収による収入	37	285
敷金及び保証金の差入による支出	218	43
敷金及び保証金の回収による収入	650	564
営業権譲渡による収入	27	76
その他の支出	2,517	5,008
その他の収入	250	84
投資活動によるキャッシュ・フロー	12,700	8,686
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	5,624	116
自己株式の取得による支出	1,469	1,614
配当金の支払額	2,647	2,614
少数株主への配当金の支払額	9	9
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,749	4,355
現金及び現金同等物に係る換算差額	25	6
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	8,442	1,009
現金及び現金同等物の期首残高	32,157	23,714
現金及び現金同等物の期末残高	1 23,714	1 24,724

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項
  - (1) 連結子会社の数 27社  
主要な連結子会社は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。  
連結子会社であったフランチャイズ育成投資事業有限責任組合及び(有)フランチャイズインベストメントは、当連結会計年度において清算を結了したため連結の範囲から除外しております。  
(株)ダスキンサーヴ近畿は、当連結会計年度において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。
2. 持分法の適用に関する事項
  - (1) 持分法適用の関連会社数 4社  
持分法適用の関連会社は楽清服務股?有限公司、PULMUONE DUSKIN CO., LTD.、統一多拿滋(上海)食品有限公司、統一多拿滋股?有限公司であります。  
PULMUONE DUSKIN CO., LTD.は、当連結会計年度において新たに設立したため、持分法適用の範囲に含めております。
  - (2) 持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度にかかる財務諸表を使用しております。
3. 連結子会社の事業年度等に関する事項  
連結子会社のうち、楽清(上海)清潔用具租賃有限公司、楽清香港有限公司、MISTER DONUT KOREA CO., LTDの決算日は平成23年12月31日であります。  
連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、平成24年1月1日から平成24年3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。
4. 会計処理基準に関する事項
  - (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法
    - イ 有価証券
      - (イ) 満期保有目的の債券  
償却原価法(定額法)
      - (ロ) その他有価証券
        - 時価のあるもの  
決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定)
        - 時価のないもの  
移動平均法による原価法
    - ロ たな卸資産  
当社及び連結子会社は移動平均法による原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)  
なお、商品・製品に含まれるレンタル品については、レンタル開始時に費用処理しております。
  - (2) 重要な減価償却資産の減価償却方法
    - イ 有形固定資産(リース資産を除く)  
当社及び連結子会社は定額法
    - ロ 無形固定資産(リース資産を除く)  
当社及び連結子会社は定額法  
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。
- ハ リース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法
- (3) 重要な引当金の計上基準
  - イ 貸倒引当金  
当社及び連結子会社は、債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
  - ロ 債務保証損失引当金  
当社及び連結子会社は、債務保証損失に備えるため、被保証先の財務内容を勘案して、所要額を見積り計上しております。
- ハ 賞与引当金  
当社及び連結子会社は、主として従業員の賞与の支出に備えるため、支給期間に対応する見積額を計上しております。
- ニ ポイント引当金  
当社は、「ポイントカード」制度に基づき顧客に付与されたポイントの使用に備えるため、当連結会計年度末において将来使用されると見込まれるポイントに対する所要額を計上しております。

ホ 退職給付引当金

当社及び連結子会社は、主として従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による按分額を費用処理しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による按分額をそれぞれ発生の日連結会計年度より費用処理しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

イ ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。また、特例処理を満たす金利スワップについては、特例処理を採用しております。

ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

為替予約取引

デリバティブ取引（金利スワップ取引）

ヘッジ対象

外貨建予定取引

長期借入金

ハ ヘッジ方針

海外取引における為替変動に対するリスクヘッジのため、為替予約取引を行っており、投機目的のデリバティブ取引は行っておりません。

また、固定金利を市場の実勢金利に合わせて変動化する場合や将来の金利上昇リスクをヘッジするために変動金利を固定化する目的で「金利スワップ取引」を行っております。

ニ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。また、特例処理の要件を満たす金利スワップについては、特例処理を採用しております。この金利スワップの有効性評価は省略しております。

ホ その他リスク管理方法のうちヘッジ会計に係わるもの

取締役会で承認を受けた資金調達計画に対して、定められたポジションの範囲内で経理部が契約の締結を行っており、取引結果については、逐次担当取締役へ報告しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、且つ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヵ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

イ 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

【追加情報】

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 百万円	3百万円

2 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券	747百万円	726百万円

3 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券	249百万円	249百万円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
商品券発行残高	122百万円	222百万円

4 偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対し、債務保証を行っております。

(債務保証)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当連結会計年度 (平成24年3月31日)	
ミスタードーナツ加盟店 (事業者融資保証)				
(株)フジタコーポレーション	85	百万円	(株)フジタコーポレーション	53
(株)サン・ウッド	67		(株)サン・ウッド	30
栗豊(株)	35		(株)安住商会	30
その他	46	288	その他	38
件			件	180
協力工場 (協栄工場融資保証)				
(株)山陰ダスキン工場	83		(株)山陰ダスキン工場	72
太洋ドライクリーニング(株)	12		(株)アズミ	27
(株)北越ダスキン協栄工場	11		太洋ドライクリーニング(株)	8
当社従業員 (厚生貸付保証)	89	120	(株)北越ダスキン協栄工場	7
			当社従業員 (厚生貸付保証)	76
			件	88
計	704		計	499

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価及び販売費及び一般管理費に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	451百万円	810百万円

- 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
減価償却費	3,699百万円	3,816百万円
貸倒引当金繰入額	45	42
賞与	5,397	5,107
退職給付費用	2,710	2,469
給料及び手当	13,958	13,912
販売手数料	6,828	3,730
のれんの償却額	147	136

- 3 売上原価及び一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	745百万円	773百万円

- 4 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物及び構築物	6百万円	0百万円
機械装置及び運搬具	0	0
その他	0	1
計	6	1

- 5 特別利益の「その他」の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
助成金	8百万円	5百万円
その他	19	4
計	27	9

- 6 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物及び構築物	7百万円	2百万円
機械装置及び運搬具	5	3
その他	21	40
計	33	45

7 固定資産廃棄損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物及び構築物	166百万円	92百万円
機械装置及び運搬具	33	35
その他	153	170
計	353	298

8 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。当社グループは、他の資産又は資産グループのキャッシュ・フローから概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す単位として、事業所毎に資産をグループ化しております。

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

場所	用途	種類	その他
東京都新宿区ほか	店舗	建物及び構築物	-

当該事業所の採算が悪化しており、将来獲得するであろうキャッシュ・フローで資産の帳簿価額を回収できないと判断したため、当資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(69百万円)として特別損失に計上しました。

その内訳は、建物及び構築物69百万円であります。なお、各資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、結果備忘価額としております。

場所	用途	種類	その他
東京都千代田区ほか	店舗、研修施設、事務所	建物及び構築物、 機械装置及び運搬具	-

店舗の撤退及び閉鎖が見込まれている資産につき、資産の帳簿価額を備忘価額まで減額し、当該減少額を減損損失(162百万円)として特別損失に計上しました。

その内訳は、建物及び構築物147百万円、機械装置及び運搬具0百万円、その他15百万円であります。

場所	用途	種類	その他
横浜市西区ほか	店舗	建物及び構築物	-

大規模改装により廃棄が見込まれている資産につき、資産の帳簿価額を備忘価額まで減額し、当該減少額を減損損失(76百万円)として特別損失に計上しました。

その内訳は、建物及び構築物76百万円であります。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

場所	用途	種類	その他
横浜市磯子区ほか	店舗	建物及び構築物	-

当該事業所の採算が悪化しており、将来獲得するであろうキャッシュ・フローで資産の帳簿価額を回収できないと判断したため、当資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(133百万円)として特別損失に計上しました。

その内訳は、建物及び構築物133百万円であります。なお、各資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、結果備忘価額としております。

場所	用途	種類	その他
大阪市中央区ほか	店舗、事務所、工場	建物及び構築物、 機械装置及び運搬具	-

事業所等の撤退及び閉鎖が見込まれている資産につき、資産の帳簿価額を備忘価額まで減額し、当該減少額を減損損失(134百万円)として特別損失に計上しました。

その内訳は、建物及び構築物131百万円、機械装置及び運搬具0百万円、その他2百万円であります。

9 災害による損失は、東日本大震災に関連して発生した損失又は被災した加盟店等への復旧支援費用で、その内訳は下記のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
復旧支援費用	217百万円	192百万円
義援金	100	91
被災資産廃棄損	78	0
災害損失引当金繰入額	671	
貸倒引当金繰入額	25	
計	1,093	284

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金

当期発生額	994百万円
組替調整額	510
税効果調整前	1,504
税効果額	771
その他有価証券評価差額金	732

繰延ヘッジ損益

当期発生額	9
税効果額	3
繰延ヘッジ損益	5

為替換算調整勘定

当期発生額	34
-------	----

持分法適用会社に関する持分相当額

当期発生額	33
-------	----

その他の包括利益合計	669
------------	-----

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	67,394			67,394
合計	67,394			67,394
自己株式				
普通株式(注)	1,158	934		2,092
合計	1,158	934		2,092

(注)普通株式の自己株式数の増加934千株は、取締役会決議による自己株式の取得による増加934千株、単元未満株式の買取による増加0千株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月24日 定時株主総会	普通株式	2,649	40	平成22年3月31日	平成22年6月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月23日 定時株主総会	普通株式	2,612	利益剰余金	40	平成23年3月31日	平成23年6月24日

当連結会計年度（自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数（千株）	当連結会計年度 増加株式数（千株）	当連結会計年度 減少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式（注）1	67,394		1,100	66,294
合計	67,394		1,100	66,294
自己株式				
普通株式（注）2	2,092	1,016	1,100	2,009
合計	2,092	1,016	1,100	2,009

（注）1. 普通株式の発行済株式総数の減少1,100千株は、自己株式の消却によるものであります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の増加1,016千株は、取締役会決議による自己株式の取得による増加1,016千株、単元未満株式の買取による増加0千株であります。

普通株式の自己株式の株式数の減少1,100千株は、自己株式の消却によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成23年 6月23日 定時株主総会	普通株式	2,612	40	平成23年 3月31日	平成23年 6月24日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成24年 6月22日 定時株主総会	普通株式	2,571	利益剰余金	40	平成24年 3月31日	平成24年 6月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
現金及び預金勘定	18,733百万円	15,600百万円
有価証券	13,017	18,153
計	31,750	33,753
償還期間が3ヵ月を超える有価証券	7,019	8,158
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	1,016	870
現金及び現金同等物	23,714	24,724

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度に株式の取得により新たにアザレプロダクツ(株) (以下、A P社) 及び共和化粧品工業(株) (以下、K K社) を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びにA P社及びK K社株式の取得価額とA P社及びK K社取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	1,671百万円
固定資産	1,371
のれん	7
流動負債	690
固定負債	124
差引	2,221
A P社が従前から保有するK K社の株式取得原価	202
A P社及びK K社株式の取得価額	2,018
A P社及びK K社現金同等物	734
A P社及びK K社取得のための支出	1,284

3 重要な非資金取引の内容

前連結会計年度に新たに計上した重要な資産除去債務の額は、721百万円であります。

(リース取引関係)

(借手側)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

事業用端末機(工具、器具及び備品)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4.会計処理基準に関する事項(口)重要な減価償却資産の減価償却方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1)リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)			当連結会計年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額 相当額	減価償却累 計額相当額	期末残高 相当額	取得価額 相当額	減価償却累 計額相当額	期末残高 相当額
機械装置及び運搬具	79	58	21	60	49	11
その他 (工具、器具及び備品)	182	157	24	6	6	0
合計	261	215	45	67	55	11

(2)未経過リース料期末残高相当額等

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	55	13
1年超	24	6
合計	80	19

(3)支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	66	10
減価償却費相当額	60	8
支払利息相当額	3	0

(4)減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5)利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(貸手側)

1. ファイナンス・リース取引

(1) リース投資資産の内訳

流動資産

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
リース料債権部分	2,085	2,054
見積残存価額部分	4	5
受取利息相当額	225	209
リース投資資産	1,864	1,850

(2) リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の連結決算日後の回収予定額

流動資産

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)					
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース投資資産	749	594	420	226	81	11

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (平成24年3月31日)					
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース投資資産	753	581	390	236	82	10

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年以内	1,158	1,104
1年超	1,567	1,567
合計	2,726	2,671

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性、確実性を最優先した金融商品に限定しており、運用先金融機関等の運用先集中リスクの回避及び運用商品につきましても格付け・期間等の一定の基準を満たす金融商品で運用をしております。また、資金調達については主に銀行借入を基本としつつ資金使途・目的に応じて金融市場環境や金利動向等を総合的に勘案し、その時点で最適と思われる調達方法を検討することとしております。デリバティブは、後記するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクにさらされております。

有価証券及び投資有価証券は、主に満期までの保有を基本とした債券及び取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、発行体の信用リスク及び金利・為替変動リスク、市場価格の変動リスクにさらされております。

営業債務である買掛金、未払金、レンタル品預り保証金、未払法人税等は、ほとんど1年以内の支払期日であります。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした通貨スワップ取引及び先物為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「4. 会計処理基準に関する事項」に記載されている「(5) 重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行に係るリスク)の管理

当社は、経理規程及び販売管理規程並びに与信管理規程、その他の取引先のリスクに関連する規程に従う営業債権について、各事業部門の管理責任者が定期的及び必要に応じた信用調査を実施しており、取引先ごとの回収一覧表等を作成して回収状況及び残高を管理すると共に、回収懸念を早期に把握し、その債権保全に努めております。連結子会社についても、当社の規程に準じて同様の管理を行っております。

有価証券及び投資有価証券の債券は、経理規程の有価証券運用管理要領に従い安全性、確実性を最優先し、格付けの高い債券を投資対象としているため、信用リスクは僅少であります。

デリバティブ取引の利用に当たっては、カウンターパーティーリスクを軽減するために格付けの高い金融機関と取引を行っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社及び一部の連結子会社は、外貨建ての営業債権債務の為替の変動リスクに対して、通貨スワップ取引及び先物為替予約を利用してヘッジしております。また、一部の連結子会社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために金利スワップ取引を利用しております。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体の格付け及び財務状況等を把握し、経理部担当取締役には毎月、取締役会には半期毎に時価の報告を行っております。また、発行体の大幅な格付け低下等が起こった場合は速やかに経理部担当取締役に報告し、対策を講じるものとしております。

デリバティブ取引については、為替及び支払金利の変動リスクのヘッジ目的で実需相当額までの取引に限定して実施しております。取引は稟議規程等の承認に基づき経理部で契約を行い、契約先との残高照合等を行っております。連結子会社についても、当社と同様の管理を行っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各事業部等からの報告に基づき経理部で資金繰り計画の作成・更新を行っております。運転資金としては将来の予測可能な資金需要に対して十分な資金及び資金化が容易な定期預金、有価証券を確保しております。また、不測の事態に備えて主要取引金融機関とコミットメントライン(特定融資枠)契約を締結しており、円滑且つ効率的な資金調達が可能な体制をとっております。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額の他、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（(注)2.を参照ください。）。

前連結会計年度（平成23年3月31日）

	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1)現金及び預金	18,733	18,733	
(2)受取手形及び売掛金	12,353		
貸倒引当金( 1)	58		
	12,294	12,294	
(3)有価証券及び投資有価証券	71,323	71,330	6
資産計	102,351	102,357	6
(1)買掛金	7,322	7,322	
(2)未払法人税等	2,651	2,651	
(3)未払金	6,962	6,962	
(4)レンタル品預り保証金	10,792	10,792	
負債計	27,729	27,729	
デリバティブ取引( 2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(47)	(47)	
ヘッジ会計が適用されているもの	(5)	(5)	
デリバティブ取引計	(53)	(53)	

( 1)受取手形及び売掛金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

( 2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しております。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1)現金及び預金	15,600	15,600	
(2)受取手形及び売掛金	10,891		
貸倒引当金( 1)	36		
	10,855	10,855	
(3)有価証券及び投資有価証券	78,212	78,235	23
資産計	104,667	104,691	23
(1)買掛金	6,616	6,616	
(2)未払法人税等	1,902	1,902	
(3)未払金	6,669	6,669	
(4)レンタル品預り保証金	10,634	10,634	
負債計	25,822	25,822	
デリバティブ取引( 2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(16)	(16)	
ヘッジ会計が適用されているもの	6	6	
デリバティブ取引計	(9)	(9)	

( 1)受取手形及び売掛金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

( 2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しております。

(注) 1 . 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

・資産

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金

これらはほとんど短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3)有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」を参照ください。

・負債

(1)買掛金、(2)未払法人税等、(3)未払金、(4)レンタル品預り保証金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

・デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」を参照ください。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
差入保証金	8,735	7,876
優先出資証券	871	
非上場株式	491	580
関係会社出資金	287	177

これらについては、市場価格がなく、且つ、将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としておりません。

3. 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	18,615			
受取手形及び売掛金	11,722	630	0	
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1)国債・地方債等			500	
(2)社債	13,000			
(3)その他				
その他の有価証券のうち				
満期があるもの				
(1)債券		7,500	16,500	27,500
(2)その他				
合計	43,337	8,130	17,000	27,500

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	15,491			
受取手形及び売掛金	10,560	330		
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1)国債・地方債等			500	
(2)社債	15,000			
(3)その他				
その他の有価証券のうち				
満期があるもの				
(1)債券	3,000	9,500	16,000	27,000
(2)その他				
合計	44,051	9,831	16,500	27,000

4. 長期借入金、リース債務及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額については、連結附属明細表「借入金等明細表」を参照ください。

(有価証券関係)

1 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
時価が連結貸借対照表 計上額を超えるもの	国債・地方債等	499	510	11
	社債	8,005	8,009	3
	その他			
	小計	8,505	8,519	14
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの	国債・地方債等			
	社債	5,011	5,004	7
	その他			
	小計	5,011	5,004	7
合計		13,517	13,524	6

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
時価が連結貸借対照表 計上額を超えるもの	国債・地方債等	499	523	23
	社債	4,996	5,007	10
	その他			
	小計	5,496	5,530	34
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの	国債・地方債等			
	社債	10,000	9,989	10
	その他			
	小計	10,000	9,989	10
合計		15,496	15,519	23

2 その他有価証券

前連結会計年度（平成23年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価又は償却原価 (百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	株式	3,777	3,347	429
	債券	20,944	19,686	1,257
	その他			
	小計	24,721	23,034	1,687
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	株式	6,606	8,018	1,412
	債券	26,477	31,015	4,537
	その他			
	小計	33,084	39,034	5,950
合計		57,805	62,068	4,262

(注)優先出資証券及び非上場株式（連結貸借対照表計上額 優先出資証券871百万円、非上場株式32百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価又は償却原価 (百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	株式	6,203	5,455	748
	債券	25,346	24,164	1,182
	その他			
	小計	31,550	29,619	1,930
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	株式	4,789	5,817	1,028
	債券	26,375	30,036	3,660
	その他			
	小計	31,164	35,853	4,688
合計		62,715	65,473	2,758

(注)非上場株式（連結貸借対照表計上額 非上場株式31百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額（百万円）	売却損の合計額（百万円）
株式	100	47	75
合計	100	47	75

当連結会計年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額（百万円）	売却損の合計額（百万円）
株式	105	3	
優先出資証券	1,000	128	
合計	1,105	132	

4 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、その他有価証券の株式について883百万円の減損処理を行っております。

当連結会計年度において、その他有価証券の債券について643百万円の減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(平成23年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超(百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の 取引	通貨スワップ取引 固定受取(米ドル)・ 固定支払(円)	3,189	3,189	47	47
合計		3,189	3,189	47	47

(注)時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格により算定しております。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超(百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の 取引	通貨スワップ取引 固定受取(米ドル)・ 固定支払(円)	3,189		16	16
合計		3,189		16	16

(注)時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格により算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(平成23年3月31日)

ヘッジ会計 の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超(百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の 振当処理	為替予約取引 買建・米ドル	予定取引	751		2
	為替予約取引 買建・円 タイパーツ	買掛金	10 94		0 2
	為替予約取引 売建・米ドル	売掛金	101		0
	合計		957		5

(注)時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格により算定しております。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

ヘッジ会計 の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超(百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の 振当処理	為替予約取引 買建・米ドル	予定取引	292		6
合計			292		6

(注)時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格により算定しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、企業年金基金制度(連合設立型)、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。一方一部の会社は、確定拠出年金制度、中小企業退職金共済制度を設けております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(1) 退職給付債務(百万円)	26,285	29,196
(2) 年金資産(百万円)	12,695	12,515
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2)(百万円)	13,589	16,681
(4) 未認識数理計算上の差異(百万円)	2,385	4,685
(5) 未認識過去勤務債務(百万円)	91	30
(6) 連結貸借対照表計上額純額(3)+(4)+(5)(百万円)	11,112	11,965
(7) 前払年金費用(百万円)		
(8) 退職給付引当金(6)-(7)(百万円)	11,112	11,965

(注)一部の連結子会社は退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
退職給付費用(百万円)	2,958	2,745
(1) 勤務費用(百万円)(注)1、2	1,107	1,116
(2) 利息費用(百万円)	487	498
(3) 期待運用収益(百万円)	231	253
(4) 数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	1,599	1,204
(5) 過去勤務債務の費用処理額(百万円)	104	61
(6) その他(百万円)(注)3	100	118

(注)1. 企業年金基金に対する従業員拠出額を控除しております。

2. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は「(1)勤務費用」に計上しております。

3. 「(6)その他」は、確定拠出年金への掛金支払額等です。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
2.0%	1.3%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
2.0%	2.0%

(4) 数理計算上の差異の処理年数

5年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法)

(5) 過去勤務債務の額の処理年数

5年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法)

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の主な発生原因別内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(流動の部)		
繰延税金資産		
賞与引当金	1,442百万円	1,305百万円
貸倒引当金	10	21
ポイント引当金	206	170
災害損失引当金	278	
資産除去債務	103	90
未実現たな卸資産売却益	121	127
未払事業税等	218	171
たな卸資産評価減	116	100
その他	644	441
繰延税金資産小計	3,142	2,429
評価性引当額	148	118
繰延税金資産合計	2,993	2,311
繰延税金負債		
その他	11	5
繰延税金負債合計	11	5
繰延税金資産の純額	2,982	2,306
(固定の部)		
繰延税金資産		
減価償却超過額	1,413	962
減損損失	502	440
退職給付引当金	4,523	4,272
債務保証損失引当金	47	21
資産除去債務	162	126
貸倒引当金	69	68
有価証券等評価減	673	546
その他有価証券評価差額金	2,082	1,671
繰越欠損金	152	213
その他	140	105
繰延税金資産小計	9,769	8,428
評価性引当額	904	967
繰延税金資産合計	8,865	7,460
繰延税金負債		
資産除去債務固定資産	69	45
特別償却準備金	8	
固定資産圧縮積立金	21	24
その他有価証券評価差額金	344	387
その他	3	3
繰延税金負債合計	447	461
繰延税金資産の純額	8,417	6,998

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.7%	40.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.1	2.2
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	2.9	0.7
住民税均等割等	1.7	1.4
評価性引当金	3.5	1.7
のれん及び負ののれん償却額	0.3	0.2
投資有価証券売却損益修正	1.4	
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正		9.4
その他	1.5	0.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	41.3	54.4

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.69%から平成24年4月1日に開始する連結会計年度から平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については38.01%に、平成27年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.64%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は1,121百万円減少し、法人税等調整額は962百万円、その他有価証券評価差額金は159百万円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ. 当該資産除去債務の概要

全国の支店及び店舗の賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

ロ. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間(5年から39年)に対応する割引率(0.485%から2.301%)を使用して資産除去債務の金額を計算しています。

ハ. 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
期首残高(注)	702百万円	652百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	19	12
時の経過による調整額	8	7
資産除去債務の履行による減少額	77	64
期末残高	652	608

(注) 前連結会計年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に製品・サービス別の事業部門を置き、各事業本部（又は事業部）は、取扱う製品・サービスについて国内の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

当社は、事業本部（又は事業部）を集約した事業グループを基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「クリーンケアグループ」「フードグループ」の2つを報告セグメントとしております。

「クリーンケアグループ」は、訪問販売を中心とした事業グループであり、清掃用資器材の賃貸、化粧品等の製造・販売、キャビネットタオルの賃貸、トイレタリー商品の販売、産業用ウエスの賃貸、浄水器・空気清浄機の賃貸、ハウスクリーニングサービス、家事代行サービス、害虫駆除・予防サービス、樹木・芝生管理サービス、工場・事務所施設管理サービス、高齢者生活支援サービス、旅行用品・ベビー用品・レジャー用品・健康及び介護用品等の賃貸並びに販売、ユニフォームの賃貸、オフィスコーヒー等の販売等の事業で構成されています。「フードグループ」は、飲食店の展開を目的とした事業グループであり、ドーナツ・ベニエ・オープン商品・飲茶並びに料理飲食物の販売等の事業で構成されております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部利益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	クリーン グループ	フード グループ	その他 (注)1	計	調整額 (注)2	連結 財務諸表 計上額
売上高						
外部顧客への売上高	115,661	51,112	10,546	177,320		177,320
セグメント間の内部売上高 又は振替高	835	72	2,398	3,306	3,306	
計	116,496	51,184	12,945	180,626	3,306	177,320
セグメント利益	13,619	4,418	210	18,249	7,312	10,937
セグメント資産	71,448	12,324	16,685	100,459	98,417	198,876
その他の項目						
減価償却費	3,036	488	1,702	5,227	945	6,172
有形固定資産及び無形固定資 産の増加額	2,563	1,330	2,503	6,397	1,106	7,503

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他 (注) 1	計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額
売上高						
外部顧客への売上高	112,177	48,807	10,133	171,118		171,118
セグメント間の内部売上高 又は振替高	852	9	2,378	3,239	3,239	
計	113,029	48,816	12,511	174,357	3,239	171,118
セグメント利益	13,789	2,876	375	17,041	7,199	9,841
セグメント資産	70,455	12,971	17,690	101,118	96,198	197,316
その他の項目						
減価償却費	3,152	488	1,637	5,278	946	6,225
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	3,452	2,282	1,475	7,210	750	7,961

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車輛のリース、病院のマネジメントサービス、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。

2. 調整額の内容は以下のとおりです。

売上高

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
セグメント間取引消去	3,306	3,239
合計	3,306	3,239

セグメント利益

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
セグメント間取引消去	29	24
全社費用	7,341	7,174
合計	7,312	7,199

全社費用は、主に当社の本社管理部門に係る費用であります。

セグメント資産

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
セグメント間取引消去	9,490	11,358
全社資産	107,907	107,556
合計	98,417	96,198

全社資産は、主に当社での余資運用資金（現金及び有価証券）、長期投資資金（投資有価証券）及び管理部門に係る資産等であります。

減価償却費

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
セグメント間取引消去	3	3
全社資産	949	950
合計	945	946

有形固定資産及び無形固定資産の増加額

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
セグメント間取引消去	0	0
全社資産	1,107	751
合計	1,106	750

3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

4. 当連結会計年度より、従来の「クリーングループ」について「クリーンケアグループ」へ名称変更いたしました。

なお、当該変更は、名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：百万円）

	クリーン グループ	フード グループ	その他	合計
外部顧客への売上	115,661	51,112	10,546	177,320

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：百万円）

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他	合計
外部顧客への売上	112,177	48,807	10,133	171,118

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

	クリーン グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
減損損失		298		9	308

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
減損損失	88	179			268

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	クリーン グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合 計
当期償却額	142	2	1		147
当期末残高（注）	271	10	12		294

（注）当期末残高の主な内容は、平成20年7月に取得した株式会社アミ・コーポレーション（現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合）ののれん残高140百万円（クリーングループ）と当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高81百万円（クリーングループ）等であり  
ます。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合 計
当期償却額	133	2	1		136
当期末残高（注）	199	0			200

（注）当期末残高の主な内容は、平成20年7月に取得した株式会社アミ・コーポレーション（現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合）ののれん残高78百万円（クリーンケアグループ）と当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高86百万円（クリーンケアグループ）  
等であります。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

「クリーングループ」セグメントにおいて、平成22年10月1日にアザレプロダクツ株式会社の全株式及び  
共和化粧品工業株式会社のアザレプロダクツ株式会社が保有する株式と自己株式を除く全株式を取得した  
ことにより、負ののれんが発生しております。なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当連結会  
計年度においては7百万円であります。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

関連当事者との間における重要な取引がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

関連当事者との間における重要な取引がないため、記載を省略しております。

( 1株当たり情報 )

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり純資産額 2,262.41円	1株当たり純資産額 2,314.38円
1株当たり当期純利益金額 79.39円	1株当たり当期純利益金額 71.07円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため、記載していません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため、記載していません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
当期純利益(百万円)	5,248	4,583
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	5,248	4,583
期中平均株式数(千株)	66,114	64,489

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金				
1年以内に返済予定の長期借入金	116	94	1.45	
1年以内に返済予定のリース債務	16	6	4.34	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	245	151	1.47	平成25年～26年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	8	2	5.02	平成25年～26年
その他有利子負債				
合計	387	254		

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	94	57		
リース債務	2	0		

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	42,909	85,399	130,634	171,118
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	2,969	5,061	7,817	10,200
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	1,692	2,866	3,069	4,583
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	26.11	44.34	47.56	71.07

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	26.11	18.23	3.16	23.54

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,078	10,134
受取手形	1 -	1 34
売掛金	2 9,639	2 8,825
有価証券	13,017	17,984
商品及び製品	5,876	5,500
仕掛品	2	3
原材料及び貯蔵品	1,440	918
前払費用	303	340
繰延税金資産	2,342	1,753
短期貸付金	33	267
関係会社短期貸付金	61	117
その他	2 2,133	2 1,725
貸倒引当金	37	49
流動資産合計	47,891	47,556
固定資産		
有形固定資産		
建物	32,133	32,288
減価償却累計額	16,815	17,573
建物(純額)	15,317	14,715
構築物	3,518	3,538
減価償却累計額	2,949	3,026
構築物(純額)	568	512
機械及び装置	5,458	5,260
減価償却累計額	4,260	4,113
機械及び装置(純額)	1,197	1,147
車両運搬具	14	50
減価償却累計額	13	17
車両運搬具(純額)	1	32
工具、器具及び備品	8,932	8,704
減価償却累計額	6,485	6,670
工具、器具及び備品(純額)	2,446	2,034
レンタル固定資産	332	280
減価償却累計額	238	216
レンタル固定資産(純額)	94	63
土地	23,336	23,336
建設仮勘定	133	261
有形固定資産合計	43,095	42,103
無形固定資産		
のれん	69	59
商標権	8	9
ソフトウェア	5,245	7,713
無形固定資産仮勘定	787	730
その他	177	173
無形固定資産合計	6,288	8,686

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	3 59,200	3 60,078
関係会社株式	11,761	11,856
その他の関係会社有価証券	188	-
出資金	0	0
関係会社出資金	340	337
長期貸付金	114	44
関係会社長期貸付金	304	291
長期前払費用	291	225
繰延税金資産	7,255	6,104
差入保証金	8,174	7,459
その他	221	321
貸倒引当金	44	77
投資損失引当金	-	177
投資その他の資産合計	87,810	86,464
固定資産合計	137,194	137,254
資産合計	185,086	184,811
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	2 7,475	2 6,626
未払金	2 5,779	2 5,403
未払費用	2 1,057	2 1,015
未払法人税等	2,254	1,397
預り金	2 9,859	2 11,687
レンタル品預り保証金	2 11,480	2 11,112
賞与引当金	2,784	2,506
ポイント引当金	506	449
災害損失引当金	607	-
資産除去債務	251	250
その他	813	570
流動負債合計	42,870	41,021
<b>固定負債</b>		
退職給付引当金	9,376	10,206
債務保証損失引当金	117	60
資産除去債務	389	347
長期預り保証金	2 800	2 784
長期預り金	2 200	2 200
長期未払金	137	62
その他	3	2
固定負債合計	11,025	11,662
負債合計	53,896	52,683

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金		
資本準備金	1,090	1,090
その他資本剰余金	2,235	496
資本剰余金合計	3,325	1,586
利益剰余金		
利益準備金	2,777	2,777
その他利益剰余金		
事業開発積立金	869	869
圧縮積立金	32	33
別途積立金	111,300	113,300
繰越利益剰余金	7,359	7,173
利益剰余金合計	122,338	124,154
自己株式	3,301	3,176
株主資本合計	133,715	133,917
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,523	1,792
繰延ヘッジ損益	1	3
評価・換算差額等合計	2,525	1,788
純資産合計	131,190	132,128
負債純資産合計	185,086	184,811

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>売上高</b>		
製品売上高	67,517	64,542
商品売上高	74,375	72,209
フランチャイズ事業収入	13,257	13,267
<b>売上高合計</b>	<b>155,150</b>	<b>150,019</b>
<b>売上原価</b>		
製品期首たな卸高	2,459	1,925
商品期首たな卸高	4,193	3,951
当期製品製造原価	36,667	35,699
当期商品仕入高	56,046	55,691
<b>合計</b>	<b>99,367</b>	<b>97,266</b>
他勘定振替高	3,522	2,930
製品期末たな卸高	1,925	1,814
商品期末たな卸高	3,951	3,685
<b>売上原価合計</b>	<b>89,969</b>	<b>88,836</b>
<b>売上総利益</b>	<b>65,181</b>	<b>61,183</b>
<b>販売費及び一般管理費</b>		
販売手数料	3,767	1,647
販売促進費	2,594	3,331
広告宣伝費	3,197	3,606
外注費	6,075	5,083
運賃	3,135	3,060
貸倒引当金繰入額	26	41
給料及び手当	11,332	11,285
賞与	4,716	4,344
役員賞与	63	56
退職給付費用	2,580	2,333
雑給	2,657	2,570
地代家賃	2,549	2,368
減価償却費	2,794	2,908
その他	11,433	11,616
<b>販売費及び一般管理費合計</b>	<b>56,925</b>	<b>54,255</b>
<b>営業利益</b>	<b>8,256</b>	<b>6,928</b>
<b>営業外収益</b>		
受取利息	19	15
有価証券利息	819	876
受取配当金	719	1,255
設備賃貸料	824	829
受取手数料	256	287
雑収入	408	491
<b>営業外収益合計</b>	<b>3,048</b>	<b>3,755</b>

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>営業外費用</b>		
支払利息	7 86	7 40
為替差損	35	38
投資事業組合運用損	105	-
賃貸借契約解約損	74	103
雑損失	174	187
<b>営業外費用合計</b>	<b>477</b>	<b>369</b>
経常利益	10,826	10,313
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	3 6	3 0
投資有価証券売却益	47	132
貸倒引当金戻入額	10	-
債務保証損失引当金戻入額	49	-
その他	12	6
<b>特別利益合計</b>	<b>126</b>	<b>139</b>
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	4 32	4 42
固定資産廃棄損	5 304	5 216
減損損失	8 308	8 265
投資有価証券評価損	861	643
投資損失引当金繰入額	-	177
災害による損失	9 981	9 323
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	481	-
サブフランチャイズ契約の変更に伴う旧契約の 功労評価金	223	-
その他	144	21
<b>特別損失合計</b>	<b>3,339</b>	<b>1,689</b>
<b>税引前当期純利益</b>	<b>7,614</b>	<b>8,763</b>
法人税、住民税及び事業税	3,844	3,369
法人税等調整額	844	966
<b>法人税等合計</b>	<b>2,999</b>	<b>4,335</b>
<b>当期純利益</b>	<b>4,615</b>	<b>4,428</b>

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
		金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)
材料費	6	9,767	26.6	9,704	27.2
労務費		1,591	4.4	1,565	4.4
経費		25,309	69.0	24,429	68.4
（うち減価償却費）		(794)	(2.2)	(820)	(2.3)
（うち製商品運賃）		(4,606)	(12.6)	(4,506)	(12.6)
（うち外注加工費）		(11,945)	(32.6)	(11,812)	(33.1)
当期総製造費用		36,667	100.0	35,700	100.0
期首仕掛品たな卸高		2		2	
合計		36,670		35,702	
期末仕掛品たな卸高		2		3	
当期製品製造原価	36,667		35,699		

(注) 当社の原価計算方法は、実際総合原価計算によっております。

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	11,352	11,352
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	11,352	11,352
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	1,090	1,090
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,090	1,090
その他資本剰余金		
当期首残高	2,235	2,235
当期変動額		
自己株式の消却	-	1,738
当期変動額合計	-	1,738
当期末残高	2,235	496
資本剰余金合計		
当期首残高	3,325	3,325
当期変動額		
自己株式の消却	-	1,738
当期変動額合計	-	1,738
当期末残高	3,325	1,586
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	2,777	2,777
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,777	2,777
その他利益剰余金		
事業開発積立金		
当期首残高	869	869
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	869	869
圧縮積立金		
当期首残高	32	32
当期変動額		
圧縮積立金の積立	-	2
圧縮積立金の取崩	0	0
当期変動額合計	0	1
当期末残高	32	33

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>別途積立金</b>		
当期首残高	106,300	111,300
当期変動額		
別途積立金の積立	5,000	2,000
当期変動額合計	5,000	2,000
当期末残高	111,300	113,300
<b>繰越利益剰余金</b>		
当期首残高	10,393	7,359
当期変動額		
剰余金の配当	2,649	2,612
当期純利益	4,615	4,428
圧縮積立金の積立	-	2
圧縮積立金の取崩	0	0
別途積立金の積立	5,000	2,000
当期変動額合計	3,033	185
当期末残高	7,359	7,173
<b>利益剰余金合計</b>		
当期首残高	120,372	122,338
当期変動額		
剰余金の配当	2,649	2,612
当期純利益	4,615	4,428
圧縮積立金の積立	-	-
圧縮積立金の取崩	-	-
別途積立金の積立	-	-
当期変動額合計	1,965	1,815
当期末残高	122,338	124,154
<b>自己株式</b>		
当期首残高	1,832	3,301
当期変動額		
自己株式の取得	1,469	1,614
自己株式の消却	-	1,738
当期変動額合計	1,469	124
当期末残高	3,301	3,176
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	133,219	133,715
当期変動額		
剰余金の配当	2,649	2,612
当期純利益	4,615	4,428
自己株式の取得	1,469	1,614
自己株式の消却	-	-
圧縮積立金の積立	-	-
圧縮積立金の取崩	-	-
別途積立金の積立	-	-
当期変動額合計	496	201

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
当期末残高	133,715	133,917
評価・換算差額等		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期末残高	1,730	2,523
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	793	731
<b>当期変動額合計</b>	793	731
当期末残高	2,523	1,792
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
当期末残高	-	1
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1	5
<b>当期変動額合計</b>	1	5
当期末残高	1	3
<b>評価・換算差額等合計</b>		
当期末残高	1,730	2,525
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	795	736
<b>当期変動額合計</b>	795	736
当期末残高	2,525	1,788
<b>純資産合計</b>		
当期末残高	131,489	131,190
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	2,649	2,612
当期純利益	4,615	4,428
自己株式の取得	1,469	1,614
自己株式の消却	-	-
圧縮積立金の積立	-	-
圧縮積立金の取崩	-	-
別途積立金の積立	-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	795	736
<b>当期変動額合計</b>	299	938
<b>当期末残高</b>	131,190	132,128

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

(2) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(3) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

なお、商品・製品に含まれるレンタル品については、レンタル開始時に費用処理しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 債務保証損失引当金

債務保証による損失に備えるため、被保証先の財務内容を勘案して、所要額を見積り計上しております。

(3) 投資損失引当金

子会社等の投資額の減少に備えるため、投資先の財務内容等を勘案して、所要額を見積り計上しております。

(4) 賞与引当金

従業員の賞与の支出に備えるため、支給期間に対応する見積額を計上しております。

(5) ポイント引当金

「ポイントカード」制度に基づき顧客に付与されたポイントの使用に備えるため、当事業年度末において将来使用されると見込まれるポイントに対する所要額を計上しております。

(6) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による按分額を費用処理しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による按分額をそれぞれ発生翌事業年度より費用処理しております。

## 5. ヘッジ会計の方法

### (1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

### (2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

為替予約取引

ヘッジ対象

外貨建予定取引

### (3) ヘッジ方針

海外取引における為替変動に対するリスクヘッジのため、為替予約取引を行っており、投機目的のデリバティブ取引は行っておりません。

### (4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。

### (5) その他リスク管理方法のうちヘッジ会計に係わるもの

取締役会で承認を受けた資金調達計画に対して、定められたポジションの範囲内で経理部が契約の締結を行っており、取引結果については、逐次担当取締役へ報告しております。

## 6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

### (1) 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

#### 【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当期の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 百万円	3百万円

2 関係会社項目

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
売掛金	606百万円	569百万円
流動資産その他	108	176
買掛金	1,339	1,139
未払金	213	199
未払費用	17	20
預り金	8,851	10,647
レンタル品預り保証金	687	644
長期預り保証金	31	31
長期預り金	200	200

3 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券	249百万円	249百万円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
商品券発行残高	122百万円	222百万円

4 偶発債務

次の会社等について、金融機関からの借入に対し、債務保証を行っております。

(債務保証)

前事業年度 (平成23年3月31日)		当事業年度 (平成24年3月31日)	
(株)エバーフレッシュ函館	340百万円	(株)エバーフレッシュ函館	245百万円
(株)ダスキンプロダクト九州	22	ミスタードーナツ加盟店	
ミスタードーナツ加盟店		(事業者融資保証)	
(事業者融資保証)		(株)フジタコーポレーション	53
(株)フジタコーポレーション	85	(株)サン・ウッド	30
(株)サン・ウッド	67	(株)安住商会	30
栗豊(株)	35	その他	38件 180
その他	46件 288	協力工場	
協力工場		(協栄工場融資保証)	
(協栄工場融資保証)		(株)山陰ダスキン工場	72
(株)山陰ダスキン工場	83	(株)アズミ	27
太洋ドライクリーニング(株)	12	太洋ドライクリーニング(株)	8
(株)北越ダスキン協栄工場	11	(株)北越ダスキン協栄工場	7
当社従業員		当社従業員	
(厚生貸付保証)	89件 120	(厚生貸付保証)	76件 88
計	1,067	計	745

## (損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価及び販売費及び一般管理費に含まれております。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	447百万円	808百万円

- 2 他勘定振替高の主な内訳は、販売促進費であります。

- 3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物	6百万円	0百万円
その他	0	0
計	6	0

- 4 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物	7百万円	2百万円
構築物	0	
機械及び装置	5	
工具、器具及び備品	18	40
その他	2	
計	32	42

- 5 固定資産廃棄損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物	145百万円	73百万円
構築物	1	0
機械及び装置	19	15
工具、器具及び備品	39	62
その他	98	65
計	304	216

- 6 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	745百万円	773百万円

- 7 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
受取利息	2百万円	4百万円
受取配当金	451	1,015
設備賃貸料	707	708
支払利息	33	40

- 8 減損損失

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。当社は、他の資産又は資産グループのキャッシュ・フローから概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す単位として、事業所毎に資産をグループ化しております。

前事業年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

場所	用途	種類	その他
東京都新宿区ほか	店舗	建物、構築物	-

当該事業所の採算が悪化しており、将来獲得するであろうキャッシュ・フローで資産の帳簿価額を回収できないと判断したため、当資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（69百万円）として特別損失に計上しました。

その内訳は、建物67百万円、構築物1百万円であります。

なお、各資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、結果備忘価額としております。

場所	用途	種類	その他
東京都千代田区ほか	店舗、研修施設、事務所	建物、構築物、 機械及び装置、 具、器具及び備品	工 -

店舗の撤退及び閉鎖が見込まれている資産につき、資産の帳簿価額を備忘価額まで減額し、当該減少額を減損損失（162百万円）として特別損失に計上しました。

その内訳は、建物147百万円、構築物0百万円、機械及び装置0百万円、工具、器具及び備品15百万円であります。

場所	用途	種類	その他
横浜市西区ほか	店舗	建物、構築物	-

大規模改装により廃棄が見込まれている資産につき、資産の帳簿価額を備忘価額まで減額し、当該減少額を減損損失（76百万円）として特別損失に計上しました。

その内訳は、建物76百万円、構築物0百万円であります。

当事業年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

場所	用途	種類	その他
横浜市磯子区ほか	店舗	建物、構築物	-

当該事業所の採算が悪化しており、将来獲得するであろうキャッシュ・フローで資産の帳簿価額を回収できないと判断したため、当資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（133百万円）として特別損失に計上しました。

その内訳は、建物133百万円、構築物0百万円であります。

なお、各資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、結果備忘価額としております。

場所	用途	種類	その他
大阪市中央区ほか	店舗、事務所、工場	建物、構築物、 機械及び装置、 工具、器具及び備品	-

事業所等の撤退及び閉鎖が見込まれている資産につき、資産の帳簿価額を備忘価額まで減額し、当該減少額を減損損失（132百万円）として特別損失に計上しました。

その内訳は、建物123百万円、構築物6百万円、機械及び装置0百万円、工具、器具及び備品2百万円であります。

9 災害による損失は、東日本大震災に関連して発生した損失又は被災した加盟店への復旧支援費用で、その内訳は下記のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
復旧支援費用	214百万円	231百万円
義援金	100	91
被災資産廃棄損	59	0
災害損失引当金繰入額	607	-
計	981	323

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(千株)	当事業年度増加 株式数(千株)	当事業年度減少 株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
普通株式 (注)	1,158	934		2,092
合計	1,158	934		2,092

(注) 普通株式の自己株式数の増加934千株は、取締役会決議による自己株式の取得による増加934千株及び単元未満株式の買取りによる増加0千株であります。

当事業年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(千株)	当事業年度増加 株式数(千株)	当事業年度減少 株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
普通株式 (注)	2,092	1,016	1,100	2,009
合計	2,092	1,016	1,100	2,009

(注) 普通株式の自己株式数の増加1,016千株は、取締役会決議による自己株式の取得による増加1,016千株及び単元未満株式の買取りによる増加0千株であります。

普通株式の自己株式数の減少1,100千株は、自己株式の消却によるものであります。

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

事業用端末機(工具、器具及び備品)であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3.固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)			当事業年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額 相当額	減価償却累 計額相当額	期末残高 相当額	取得価額 相当額	減価償却累 計額相当額	期末残高 相当額
建物	12	11	0	-	-	-
車輛運搬具	50	42	8	29	27	1
工具、器具及び備品	282	226	55	93	76	16
合計	345	280	65	122	103	18

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	48	20
1年超	20	-
合計	69	20

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失

(単位：百万円)

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	110	50
減価償却費相当額	101	46
支払利息相当額	3	1

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(有価証券関係)

前事業年度(平成23年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式等(貸借対照表計上額 子会社株式11,362百万円、関連会社株式398百万円、関係会社出資金340百万円、その他の関係会社有価証券188百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成24年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式等(貸借対照表計上額 子会社株式11,457百万円、関連会社株式398百万円、関係会社出資金337百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の主な発生原因別内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
( 流動の部 )		
繰延税金資産		
賞与引当金	1,132百万円	952百万円
ポイント引当金	206	170
災害損失引当金	247	-
資産除去債務	102	89
未払事業税	185	131
たな卸資産評価減	115	98
その他	415	403
繰延税金資産小計	2,405	1,846
評価性引当額	63	90
繰延税金資産合計	2,342	1,756
繰延税金負債		
その他	0	2
繰延税金負債合計	0	2
繰延税金資産の純額	2,342	1,753
( 固定の部 )		
繰延税金資産		
減価償却超過額	1,166	815
減損損失	502	440
退職給付引当金	3,815	3,637
債務保証損失引当金	47	21
投資損失引当金	-	63
資産除去債務	158	123
貸倒引当金	3	22
有価証券等評価減	1,584	1,343
その他有価証券評価差額金	2,082	1,671
その他	58	23
繰延税金資産小計	9,420	8,163
評価性引当額	1,728	1,605
繰延税金資産合計	7,691	6,557
繰延税金負債		
資産除去債務固定資産	67	44
固定資産圧縮積立金	21	18
その他有価証券評価差額金	344	387
その他	2	1
繰延税金負債合計	435	453
繰延税金資産の純額	7,255	6,104

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.7%	40.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.2	1.6
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	3.1	4.9
住民税均等割等	1.7	1.4
評価性引当金	1.6	1.6
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正		9.4
その他	0.5	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	39.4	49.5

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.69%から平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については38.01%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.64%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は979百万円減少し、法人税等調整額が820百万円、その他有価証券評価差額金が159百万円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ. 当該資産除去債務の概要

全国の支店及び店舗の賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

ロ. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間(5年から39年)に対応する割引率(0.485%から2.301%)を使用して資産除去債務の金額を計算しています。

ハ. 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
期首残高 (注)	689百万円	641百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	16	12
時の経過による調整額	8	7
資産除去債務の履行による減少額	72	63
期末残高	641	597

(注) 前事業年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
1株当たり純資産額	2,008.96円	1株当たり純資産額 2,055.34円
1株当たり当期純利益金額	69.80円	1株当たり当期純利益金額 68.66円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため、記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため、記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
当期純利益(百万円)	4,615	4,428
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	4,615	4,428
期中平均株式数(千株)	66,114	64,489

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】  
【有価証券明細表】  
【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
(投資有価証券)		
その他有価証券		
(株)モスフードサービス	1,315,600	2,065
日本製粉(株)	5,020,000	1,907
ロイヤルホールディングス(株)	1,400,000	1,310
大和ハウス工業(株)	937,000	1,025
日本水産(株)	3,230,000	910
住友不動産(株)	375,000	748
江崎グリコ(株)	730,000	724
(株)池田泉州ホールディングス	4,243,000	487
(株)カネカ	760,000	379
(株)千趣会	530,000	310
ソントン食品工業(株)	400,000	286
ニッタ(株)	130,000	197
(株)ニチイ学館	120,000	132
その他(24銘柄)	1,827,921	527
計	21,018,521	11,013

【債券】

銘柄	券面総額(百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
(有価証券)		
満期保有目的の債券		
オリエントコーポレーションコマーシャル・ペーパー	10,000	9,994
ユーロ円建クレジットリンク債(BNP Paribas S. A.)	2,000	2,000
第5回韓国輸出入銀行円貨債券	1,000	1,002
ING Bank N.V.ユーロ円建て債	1,000	1,000
第1回韓国産業銀行変動利付円貨債券	1,000	999
小計	15,000	14,996
その他有価証券		
(株)三菱東京UFJ銀行第19回期限前償還条項付無担保社債	1,500	1,502
リパッケージ・逆フローター・ユーロ円債(MASCOT(GMAC))	1,500	1,485
小計	3,000	2,987

銘柄	券面総額(百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
(投資有価証券)		
満期保有目的の債券		
第304回利付国庫債券	500	499
小計	500	499
その他有価証券		
大和証券エスエムビーシー(株)マルチコーラブル・円/米ドル・パワーリバースデュアル債	5,000	4,043
(株)三井住友銀行第21回期限前償還条項付無担保社債	4,000	4,020
みずほ信託銀行ユーロ円建永久劣後債	3,000	3,099
ユーロ円建てクレジットリンク債(みずほコーポレート銀行)	3,000	2,948
期限前償還条項付・円/米ドル・パワーリバースデュアル債(オーストラリアコモンウェルス銀行)	3,000	2,347
早期償還条項付リバースフローター債	2,000	2,034
B T M U キュラソー・ホールディングユーロ円建永久劣後債	2,000	2,016
ユーロ円建クレジットリンク債(東京海上日動火災)	2,000	2,003
(株)三井住友銀行第26回期限前償還条項付無担保社債	2,000	1,985
(株)三井住友銀行第29回期限前償還条項付無担保社債	2,000	1,984
期限前償還条項付・円/豪ドル・パワーリバースデュアル債(オーストラリアコモンウェルス銀行)	2,000	1,884
オーストラリアコモンウェルス銀行マルチコーラブル・円/米ドル・パワーリバースデュアル債	2,500	1,745
みずほ信託ユーロ円建永久劣後債	1,500	1,586
(株)みずほコーポレート銀行第5回期限前償還条項付無担保社債	1,500	1,539
みずほファイナンス(キュラソー)劣後債	1,500	1,509
オーストラリアコモンウェルス銀行ユーロ円建て債	2,000	1,357
メリルリンチ為替連動デジタル債	2,000	1,027
ユーロ円建て期限付劣後債	1,000	1,009
(株)三菱東京UFJ銀行第22回期限前償還条項付無担保社債	1,000	1,005
(株)三菱東京UFJ銀行第36回期限前償還条項付無担保社債	1,000	1,001
ユーロ円建クレジットリンク債(三井住友海上火災)	1,000	1,000
ユーロ円建リバース・フローター債	1,000	999
ユーロ円建外国債券リバースフローター債	1,000	989
みずほ証券・三菱東京UFJ銀行クレジットリンク債	1,000	978
みずほ証券・三井住友銀行クレジットリンク債	1,000	976
ユーロ円建クレジットリンク債(みずほコーポレート銀行)	1,000	972
ユーロ円建てクレジットリンク債(みずほコーポレート銀行)	1,000	957
(株)三井住友銀行第24回無担保変動利付社債	500	523
(株)三井住友銀行ユーロ円建て期限付劣後債	500	515
STB Finance Cayman Limitedユーロ円建て期限付劣後債	500	501
小計	52,500	48,565
計	71,000	67,049

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	32,133	883	727 (257)	32,288	17,573	1,004	14,715
構築物	3,518	34	14 (6)	3,538	3,026	83	512
機械及び装置	5,458	187	385 (0)	5,260	4,113	182	1,147
車両運搬具	14	37	1	50	17	5	32
工具、器具及び備品	8,932	523	752 (2)	8,704	6,670	799	2,034
レンタル固定資産	332	19	72	280	216	22	63
土地	23,336	-	-	23,336	-	-	23,336
建設仮勘定	133	259	130	261	-	-	261
有形固定資産計	73,858	1,944	2,082 (265)	73,721	31,617	2,097	42,103
無形固定資産							
のれん	485	46	63	468	408	48	59
商標権	92	4	1	94	85	1	9
ソフトウェア	12,040	4,231	97	16,174	8,461	1,757	7,713
無形固定資産仮勘定	787	664	722	730	-	-	730
その他	239	1	0	240	66	4	173
無形固定資産計	13,645	4,948	885	17,708	9,022	1,811	8,686
長期前払費用	685	35	110	610	384	12	225

(注) 1. 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。

2. 主な増加内容は次のとおりです。

ソフトウェア	フードグループでのミスタードーナツ情報システム構築	2,281百万円
	クリーンケアグループでの店舗業務システム改修	932百万円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金 1	81	55	7	2	126
投資損失引当金	-	177	-	-	177
賞与引当金	2,784	2,506	2,784	-	2,506
ポイント引当金	506	449	506	-	449
災害損失引当金	607	-	607	-	-
債務保証損失引当金 2	117	10	-	67	60

(注) 1 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、回収による戻入れであります。

2 債務保証損失引当金の「当期減少額(その他)」のうち、55百万円は債権者への返済による戻入れ、11百万円は債務者の財務内容が改善したことによる戻入れであります。

(2)【主な資産及び負債の内容】

1 資産の部

イ 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	57
預金	
当座預金	760
普通預金	3,940
定期預金	5,360
振替貯金	16
小計	10,077
合計	10,134

ロ 受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
T S P太陽株	31
ジーク株	2
株電通テック	0
合計	34

期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成24年3月	3
4月	31
5月	0
合計	34

八 売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)フジタコーポレーション	195
(株)松屋	184
(株)ヴィアン	159
大和フーズ(株)	142
(株)サン・ウッド	140
(株)太陽エンタープライズ	123
(株)A & D CRECER	114
その他	7,765
合計	8,825

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

期首残高 (百万円) (A)	当期発生高 (百万円) (B)	当期回収高 (百万円) (C)	当期末残高 (百万円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	滞留期間(日) (A) + (D) 2 (B) 366
9,639	160,374	161,188	8,825	94.8	21.0

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

二 商品及び製品

品名	金額(百万円)
商品	
清掃用具付属部品	1,658
販売商品及び販売促進物	981
食品・原材料	773
薬品・資器材	271
小計	3,685
製品	
マット・モップ・クロス	1,695
空気清浄機	77
浄水器	26
タオル	16
小計	1,814
合計	5,500

ホ 仕掛品

品名	金額(百万円)
マット	1
モップ他	1
合計	3

ヘ 原材料及び貯蔵品

品名	金額(百万円)
原材料	
モップ他レンタル製品用資材	172
加工用処理液	120
その他加工材料	33
小計	326
貯蔵品	
備品・予備部品・資材	210
書籍・消耗品・研修用品	192
プレミアム商品等	182
チケット・絵画他	6
小計	591
合計	918

ト 関係会社株式

区分	金額(百万円)
ダスキン共益(株)	4,756
共和化粧品工業(株)	1,111
アザレプロダクツ(株)	907
(株)ダスキンサーヴ東北	694
(株)ダスキンサーヴ九州	593
その他	3,792
合計	11,856

2 負債の部

イ 買掛金

相手先	金額(百万円)
日本製粉(株)	743
日本リッチ(株)	460
(株)小野ダスキン	376
カネダ(株)	344
伊藤景パック産業(株)	200
その他	4,502
合計	6,626

ロ 預り金

区分	金額(百万円)
支払代行資金等関係会社預り金	10,646
代行資金預り金	521
法定預り金	177
その他	342
合計	11,687

ハ レンタル品預り保証金

区分	金額(百万円)
マット・モップ等	10,648
空気清浄機	150
浄水器	81
その他	232
合計	11,112

ニ 退職給付引当金

区分	金額(百万円)
未積立退職給付債務	14,667
未認識数理計算上の差異	4,461
合計	10,206

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	大阪市中央区北浜二丁目2番21号 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.duskin.co.jp/ir/koukoku.html">http://www.duskin.co.jp/ir/koukoku.html</a>
株主に対する特典	毎年3月31日現在及び9月30日現在の株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有の株主に対し、下記の株主ご優待券を贈呈。 100株以上300株未満 株主ご優待券1,000円分 (500円券2枚) 300株以上 株主ご優待券2,000円分 (500円券4枚)

(注) 1. 当社は、当社の株主はその有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨を定款に定めております。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集形式の割当及び募集新株予約権の割当を受ける権利

2. 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社は平成24年4月1日をもって、住友信託銀行株式会社、中央三井アセット信託銀行株式会社と合併し、商号を「三井住友信託銀行株式会社」に変更し、以下のとおり商号・住所等が変更となっております。

取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- |                                   |   |                               |                           |
|-----------------------------------|---|-------------------------------|---------------------------|
| (1) 有価証券報告書<br>及びその添付書類<br>並びに確認書 | 事業年度<br>(第49期)                                  | 自 平成22年4月1日<br>至 平成23年3月31日   | 平成23年6月24日<br>関東財務局長に提出。  |
| (2) 内部統制報告書<br>及びその添付書類           |   |                               | 平成23年6月24日<br>関東財務局長に提出。  |
| (3) 四半期報告書<br>及び確認書               | 事業年度<br>(第50期第1四半期)                             | 自 平成23年4月1日<br>至 平成23年6月30日   | 平成23年8月12日<br>関東財務局長に提出。  |
|                                   | 事業年度<br>(第50期第2四半期)                             | 自 平成23年7月1日<br>至 平成23年9月30日   | 平成23年11月11日<br>関東財務局長に提出。 |
|                                   | 事業年度<br>(第50期第3四半期)                             | 自 平成23年10月1日<br>至 平成23年12月31日 | 平成24年2月10日<br>関東財務局長に提出。  |
| (4) 自己株券買付状況<br>報告書               | 報告期間  | 自 平成23年6月1日<br>至 平成23年6月30日   | 平成23年7月8日<br>関東財務局長に提出。   |
|                                   | 報告期間  | 自 平成23年10月1日<br>至 平成23年10月31日 | 平成23年11月10日<br>関東財務局長に提出。 |
|                                   | 報告期間  | 自 平成23年11月1日<br>至 平成23年11月30日 | 平成23年12月9日<br>関東財務局長に提出。  |
| (5) 臨時報告書                         | 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号<br>の2の規定に基づく臨時報告書です。 |                               | 平成23年6月24日<br>関東財務局長に提出。  |
|                                   | 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号<br>の2の規定に基づく臨時報告書です。 |                               | 平成24年6月25日<br>関東財務局長に提出。  |

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年6月21日

株式会社ダスキン

取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石橋 正紀

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 西原 健二

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊藤 嘉章

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ダスキンの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

#### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ダスキン及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ダスキンの平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社ダスキンが平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
  2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成24年6月21日

株式会社ダスキン

取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石橋 正紀

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 西原 健二

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊藤 嘉章

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ダスキンの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第50期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ダスキンの平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
  2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。